

社會教育講演集 完

文部省普通學務局

凡 例

一、本篇は大正九年六月、文部省に於て開催した第二回社會教育講習會の講義録である。

一、第一回社會教育講習會は、主として生活改善に關するものであつたが、今回は、新に各府縣に設置した社會教育主事の爲めに、該教育事務上、直に參考となる題材を擇らむで講じたのである。

一、本篇は各地方の有志者から、社會教育上の資料として需めらるゝこと切なるが爲め、茲に上梓した次第である、蓋社會教化の事に當らるゝ人にとつて多少の參考とならば幸甚である。

大正九年十二月

文 部 省 普 通 學 務 局

總目次

思想問題	社會教育とは何ぞ	教育的博物館展覽事業	圖書館及通俗讀み物	社會教育と統計事務	公衆娛樂と社會教育	活動寫眞と社會教育	生活改善の意義	主食の改善	家屋の改善
------	----------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	---------	-------	-------

總目次

東京帝國大學 助教	文部省督學官	東京教育博物館長	東京市立日比谷 圖書館	橫濱高等工業學校 教授	東京帝國大學助手	文部省囑託	文部事務官	東京帝國大學教授 農學博士	東京高等工業學校 教授
深作安文	塚原政次	棚橋源太郎	今澤慈海	水野常吉	權田保之助	青地忠三	乘杉嘉壽	稻垣乙丙	前田松韻

青年團女子青年會

內務省書記官

田子一民

社會教育上學校設備の利用

東京女子高等師範學校教授

藤井利譽

講習會講演會の經營

東京高等師範學校教授

佐々木吉三郎

公衆體育指導法に就て

醫學博士

富士川游

教育的博物館展覽事業

教育的博物館展覽事業

東京教育博物館長 棚橋源太郎

私は色々な題目に付て御話を申上げること相成つて居りますが、今日は展覽會の方の見學が午後にあるのでありますから、展覽會の事を中心にして御話を致さうと思ふのであります。

一口に展覽會と申しますけれども、展覽會の趣旨を十分徹底いたすにはそれに關聯して色々な附帶的の仕事を致さなければならぬことになりますから、展覽會にはどうしても講演會が結付かなければなりません。そして其の講演を致すには活動寫眞も使はなければならぬことになる、或は又單に講演だけでは面白くないので、事柄に依つては實演をして見せると云つたやうなことにもなりません、或は見ただけではいけない、食物などになりますと試食をさせて見なければならぬと云ふことになるのでございまして、展覽會に試食會と云ふやうなことが結付くことにもならうと思ひます、又展覽會の趣旨をよく徹底させるには、一度其處で見たゞけではいかぬから、更に印刷物にして與へる、さうして其効果を一層永續的ならしめる、尙此階下にも澤山陳列してありますが普通の一枚摺印刷物の外にポスター、廣告ビラと云つたやうな印刷物の力に訴へなければならぬ、のみならず展覽會の趣旨を本當によく徹底させ、社會民衆を訓練し、徹底的の効果を擧げやうと云ふには、若干其主義を實行させて見る必要である、従つて其展覽會に何等かの宣傳的の運動を

結付ける、例へば時展覽會には時の記念日を舉行して之に時間厲行の運動を結付ける、或は災害豫防の展覽會には安全週間の宣傳運動を結付けると云ふやうなことも必要になつて來るのであります、而してそれを廣く全國的の運動に致すには、新聞の利用が必要であります、新聞の利用は社會教育の上に於て極めて大事なことであります、それから前に一寸申しました通り此階下に貼出してあるやうなビラの利用を忘れてはなりません、歐米諸國の社會教育では、教育上にポスターを利用することが餘ほど盛んになつて參つたのでありますから、今後本邦の社會教育に於ても宣傳ビラの應用と云ふことは餘ほど大事なことだらうと思ひます、それで一口に展覽會と申しますけれども自然社會教育として吾々がしなくてはならぬ種々な施設廣い範圍の仕事に亘ることに相成るのでありますから、自然私は展覽會を中心にして、今後吾々が執るべき主なる社會教育方法の概略を御話することに相成るだらうと思ふのであります。

そこで展覽會でありますが、此展覽會にも色々の種類があるのであります、其開催を致す目的に依つて色々な種類があるのであります、私の此處で申上げるのは、言ふ迄もなく社會民衆を教育する意味で開催する展覽會の事を申し上げれば宜い筈であります、併ながら展覽會、博覽會には一體どんなやり方があるかと云ふやうなこともちよつと申上げて置かないと混雜を致すのであります、先づ私共の關係致して居る博物館で時々開催致すやうな展覽會は、皆社會民衆を啓發し、教育する意味で開催して居るのであります、地方でも衛生の展覽會であるとか、或は時局資料の展覽會とか或はそれに類似した種々な展覽會を催しますが此等は大概社會教育の意味で御開催になつて居ると思ふのであります、然るにさうでないものも尠くないのであります、此事は社會教育關係者としては第一に問題に致さなければならぬことであるのであります、何ぜと

申せば社會教育外の他の目的で開催される展覽會と雖も、吾々社會教育に關係のある者がそれに關係をして多少の注意を拂う事に致すと云ふと、教育以外の特殊の目的で開催されるものでも同時に、社會民衆を教育する上に隨分効果を擧げることが出來やうかと思ふからであります、で少數専門家の參考にする爲に展覽會が時々催される、例へば醫者さんが大會を開きまして、其機會に於て醫科器械を列べて見せる、又教育會を開かれた時分に、其教育會を機會に學校を使つて理化學の器械であるとか、標本であるとか云ふやうな教育品を集めて見せる、是は社會教育、通俗教育を目的としたものではない、特殊の、専門の人の參考に資する爲めの展覽會であるのです、又或同業者仲間が大會を開くと云ふやうな機會に、其業務に携はつて居る人の參考に供する爲に特殊の展覽會が行はれることがあるのであります、或は又同好の人が何か持ち寄つて、書畫とか骨董とかを持ち寄つて展覽會を開くことがあります、是等は皆社會教育の意味ではないので、少數専門家の參考に供する爲に開く展覽會であります。

それ等と極く近いのであります、文部省が、文部省と言つても帝國美術院と云つても宜いが、毎年秋季に一度展覽會を開いて作品を列べて見せる、斯う云つたやうな類の展覽會も、社會教育でもなければ通俗教育でもない、總て斯ういふ展覽會は或種の技藝、産業等の奨励、發達を促す爲に致すのであります、出品を審査して等級を附けて選奨し、其技藝なり産業なりの進歩發達を促すと云ふ意味であるのであります、社會民衆の爲め美術教育、藝術教育をしようと云ふ意味ではないのであります。

年々の院展などには猶も拘子もどろ／＼行つて見るのでありますけれども恐らく何も解るまいと思ひます、吾々も其行つて見る仲間の一人であります、何時行つても解つたことはありません、眞に鑑識眼あり、作

出する能力ある繪の事に付ての専門家でなければ見たつて解りもしなければ面白くもない、作者の努力、あの作家は本來斯う云ふ畫風であつたが、近來大變に腕を上げて來たとか、餘ほど新し味が加はつて來たとか、斯う云ふ新しい色彩を用ゐ出して來たとか云ふ様なことを批評的に見るのが面白いので、其方面の専門家でなければ作者の努力、進歩の跡を見て樂しむとか、批評するとか云ふことは出來はせぬ、素人が新聞の批評ぐらゐを見て行つたのでは解りませぬ、唯何かなしに一度見て置かぬと話にならぬからと云つた様な譯でどや／＼行くのでありますから、あれは社會教育ではないのであります。が、社會教育の意味で美術品を集めて民衆に見せると云ふことはあつても宜いことです。

常設の美術博物館などは一つは社會教育の意味で列べて居るのであります、ちやんと時代別にし或は作者で分類し、之に説明を附け、案内者があつて説明をする、説明なしで見ただけでも藝術の發達、色々な派の特色が分るのであります、況やそれに説明が附けば餘ほどそれと興味も起り、藝術品に付ての鑑賞力が養はれるのであります、さう云ふ意味で代表的作物を集めて順序を附け、説明を附けて陳列して置くと云ふことならば、一般に社會民衆の藝術的趣味を高めると云ふことに於て社會教育に相成ると思ふ、同時に娛樂にもならうと思ひます、之に反して彼の専門家が腕を研いて競争的に作品を出した共進會を見たつてそれが社會教育になると云ふ譯はない、斯ういふ展覽會をも社會教育であると考えるのは間違つて居るのであります、あれは特殊技藝の發達進歩を促す爲の一種の共進會である、斯う見て宜い、それには馬の品評會があつたり、米の品評會があつたり、繭、家禽家畜の品評會などもある、いつか山形縣の共進會で馬の品評會を見たのであります、此馬の價は一萬圓である、是は五千圓である、是は三千圓であると云ふのが、出品されて居

たがどうしてこれが一萬圓の價值があるのか、三千圓の價值しかないのか吾々には解らない、しかしそれを専門家が見ると面白い、専門家は其馬の足や、首の工合、其他色々な點を見て是はよく出來て居ると云つて面白もあり参考にもなるのであるが、私共はさう云ふ點になると明き旨、見ても解らない、是は社會教育ではない、展覽會は皆社會教育であると云ふ譯には參らぬのであります。

この外に尙勸業博覽會と云ふやうなものもあるのであります、是亦或種の工業品、農産品杯を出品させて、審査をし等級を附けて、選奨をする、さうして賞を取つた者はそれを廣告に利用し會社や店の信用を高める、斯う云ふやうな産業の發達と云ふ意味で、名から勸業であるのであります、それに對しては或種の専門家がこれを見て、あゝ云ふ良い製品が出來出したと云ふので、自然販路の擴張と云ふことにも相成るのであります、産業の進歩發達を圖る意味で展覽會が開かれるのであります、又もつと廣い意味で、是はまだ日本にはないのであります、世界的博覽會と云つたやうなものが世界各地で開かれるのであります、是は又意味が違ふのであります、大戦争後の、平和克復の記念であるとか、共和政治になつた幾年目の記念であるとか、亞米利加大陸の發見された幾年目の記念であるとか、其國の文明の進歩發達を世界に紹介する、無論商品の販路を擴張すると云ふやうなこともあるのであります、其國の發展文化を紹介すると云ふ意味で開かれる世界的博覽會と云ふものがあるのであります、即ち國交上、國際上の關係からさう云ふ博覽會が開かれて、其機會に於て世界の専門家が集つて互に意見を交換するやうな事も行はれる、斯ういふ意味で世界的博覽會が開かれるのでありますから其目的が大きいのであります、従つて其博覽會の中には社會教育になる點が多いのであります。

尙ほ勸業博覽會其他特殊的目的を以て開かれる、即ち社會教育を直接の目的としないて開かれる展覽會、博覽會でも、先刻御話したやうに社會教育關係者が一人二人加はつて少しく形を變へると、隨分社會民衆の教育をするものとも相成るだらうと思ひます、即ち爾なら爾、米なら米を唯見せて置いたゞけてはそれは養蠶家、農夫及之が取扱者に分るだけでありませうけれども、少し説明を附けるとか、參考品を列べて其處で製造工程生産する順序を見せるとか、社會教育の意味で參考部を造るとか、卑近な講演をやるとか活動寫眞で説明するとかすれば、縱令社會教育を目的としなくても社會教育に利用が出来たらうと思ひます、故に社會教育以外の展覽會が澤山あるから、それを出来るだけ民衆教育の上に利用するやうな方法を講ずると云ふのが吾々の立場ではあるまいかと思ふ、縣廳でも各部各課で色々其進會をやり展覽會をやる、又他の方面でも色々展覽會をするでせうが、社會教育の立場から互は其の委員の一人に加はり、多少の註文を附け、専門的方面の發達を促すと同時に之に對する一般民衆の知識、趣味を高めると云ふ爲に吾々としては努力しなければならぬのでありますから、吾々の關する所は單り社會教育を目的とした展覽會ばかりでなく、其以外の展覽會にも成るだけ加はつて、さうしてそれを民衆の啓發に利用すると云ふことがお互として極めて必要ではあるまいかと思ふのであります、それで少しく横途に這入りましたが色々な種類の展覽會があると云ふことを申上げた譯であります。

私は博物館に従事し屢展覽會を致して居る關係上、毎年春と秋になると地方から御出になつて、今度教育品展覽會を開かうと思ふ、就ては何か借りる物はないだらうか、東京では何處へ行つたら參考品があるだらうかと云ふ御相談を受ける、其都度私は申上げる、それはどう云ふ機會にお開きになりますかと問うと、丁度

其頃縣教育會の總會で教員が集つて来る、それを機會に教育品展覽會を開きたいのだといふ様な事が多い、それでは主として狙ひ所は學校教員或は教育行政に關係する者の參考にして其縣教育の進歩發達を圖ると云ふ意味の、専門家の參考に供する爲めの展覽會でありますか、或は教育の進歩發達と云ふやうなことを一般に社會民衆に知らせる、通俗教育と云ふ意味の展覽會でありますか、と切り込て斯う問ひ返へすと大抵は考へになる、まだ其處が決つて居らぬらしい、中には兩方の目的でやるといふ方もある、一回の展覽會に千圓なり二千圓なり大金をかけてやると云ふには、其費す金に對して、相應の効果を擧げると云ふ決心があり目指す所があつて計畫しなければならぬ筈であります、其事が先づ解決せられて、教員に十分徹底するやうに見せるとか、或は一般社會の人に見せて教育の進歩を知らせて父兄の熱心を促すとか何とか、はつきり目的が定まらなくてはいいまいと思ふ。

まだ社會教育と云ふ仕事が甚だ研究されて居らぬ結果、社會教育上大切な一つである展覽會に付てもよく研究されて居らぬ爲に、素人考へに教員にも見せ世間の人にも見せると云ふ、極ぼんやりした意味で開催されて居るのではあるまいかと思ふ、教員の爲めの展覽會は一般の人には面白くない、理化學の兒童用實驗器械とか計數器とか云ふやうな物を見せた所が一般の人には面白くない、教育に關係のある者には面白いかも知れないけれども、一般の人には何の社會教育にもなりません、社會教育にはもつと狙ひ所があるのであります、そこらの事が甚だはつきりして居らぬ故に、折角澤山金をかけても、効果が尠い。

一般に從來學校で催される展覽會は子供に引張られて見に行つたが、一向面白くない展覽會であつた、此次には眞ッ平御免だと云ふやうに、折角父兄に見せても時間潰しになつて仕舞ふと云ふやうなことが普通で

ある、それは先刻御話を致す通り、教育用品の展覽會は特殊専門家がお集りになつて、今日は兒童實驗と云ふものを奨勵しなければならぬから、彼方此方から兒童實驗用の理化學器械を集めて、そして斯道の専門家が審査をし、等級を付け、理科教授關係者がそれを見て刺戟を受け、教育事業の進歩發達を促すと云ふ一種の共進會であるのでありますから、さう云ふ特殊専門の共進會を一般の人が見ても、面白くない筈です、恰も吾々教育關係者が馬の展覽會、繭の共進會を見ても分らぬのと同じことである、てありますから其處はよく考へなければなるまいと思ふ。

よく生徒の成績品展覽會と云ふものが行はれますが、生徒成績品展覽會ぐらゐ面白くないものはない、親達は子供に、私の成績が列んで居るから是非見て呉れと云ふやうなことで、子供に引ッ張られて行つて見る、可愛い子供が書いたのでありますから、學校に父兄を幾らか接近せしめると云ふやうな効果はあるかも知れませぬが、展覽會其物は誠に面白くないものである、生徒の成績品展覽會が計畫されると云ふ時にはいつも私は質問する、成績品展覽會は教授の進歩發達を圖る目的で教育關係者の爲に御開きになるのか、或は澤山父兄を集め、何か他の目的の爲におやりになるのか、何れてありますかと教員の參考に資すると云ふことであるならば成績品の列べ方がある、例へば圖畫に就いて申すなら或學校の研究の結果、初年級では斯う云ふやり方で初めは記憶畫から描かせます、寫生畫圖案のやり方は斯くくである、或は校外に行つて生徒に寫生をさせて居る狀況を寫真に撮つて見せる、其他生徒の使ふ紙、繪具、鉛筆、さう云ふ物をも參考に列べる、斯の如き方法に依つて作り得た生徒の成績は是である、と成績品を列べる、そして是は記憶から描いてある、斯う云ふ方法で畫かれてある、是は圖案をさせたのである、斯う云ふ方法でやつたのであると云ふやうに、其生徒の成績物を通して特に其學校で工夫研究された教授法を紹介すると云ふ様な仕組で生徒成績品展覽會が開かれるならば、それを教員が見て、成るほど之れは進んだ教授方法である、之に依つて生徒に與へた教育的効果は定めて非常なものであらう、今までの方法は非常に間違つたやり方であつたと云ふやうな風に諒解する、故に生徒成績品の展覽會をお開きになるにも特に教員の參考にすると云ふならば其やり方があると思ふ。

生徒成績品の展覽會をどう云ふ意味でお開きになるのか分らない、裁縫で子供の拵へた絹や縮緬の立派な物を無暗に列べたり、圖畫をべたべた貼り付けたりして、さうして子供が親を引ッ張つて來てお祭騒ぎをする、それは何かの政策の一であり或目的があつてお開きになるならばそれまでありますけれども、幼稚なやり方である、歐羅巴でも學校の教育關係者が成績品展覽會を開きます、低能兒學校の關係者の全國の大會があつた時に行つて見ますと、其處でも展覽會を開いて居る、併し其展覽會は世間の人は一人も見ない、集つて來た人だけが見る成績品展覽會である、それで初めて價值があるのであります、一般民衆を教育する爲に開くと云ふならば、其意味で展覽會が開かれなければならぬ筈である、是は分り切つた話である、分り切つて居りますが我國では甚だ解つて居ない、何の目的でやるのかはつきりしないで、盲ら滅法に盲動すると云ふやうな耻しい程度に於て總ての事が施設されて居るのであります、展覽會ばかりでない日本の總ての施設は、學校教育でも何でも極めて幼稚であると云ふことを私は言ひたいのであります。

それなら社會教育を目的とする教育の展覽會が無いかと言へばさうではない、教育者が集つて、社會民衆を教育する意味で教育に關する展覽會をやつて見やうではないか、教育と云ふ仕事は學校教育ばかりでない、

學校教育の中にも各種の教育がある、實業、専門、普通、色々の教育がある、それに家庭教育がある、社會教育がある、さうして色々なことが今日行はれて居る、て世間の人をしてもそつと教育の重大なること、國家の發展は教育が根柢であると云ふやうな事又今日教育の爲め各國が如何に努力しつゝあるか、其施設を見ても歐羅巴、亞米利加に比較して我國は如何にも幼稚である、それ故に家庭教育學校教育の刷新を圖り社會教育などに付てももつと世間の人が興味を有つて呉れるやうに、社會民衆を教育して見やうぢやないかと云ふので、教育會等の事業として、社會教育を目的とする教育の展覽會を御開きになると云ふことはあつても宜いと思ふ、明治初年からの教科書を集めて其進歩を見せたり、今日色々な新しい施設をやつて居る其の寫眞を見せたり、幻燈や活動寫眞て之を見せたり、色々な參考品を持つて來て見せ、統計を見せ、教育と云ふ題目の下に、社會教育を目的とした展覽會をお開きになると云ふことはあつても宜いと思ふ、何でも社會民衆の教育を目的にしたのでありますから御互教育の専門家から見れば何でもないことである、何でもないことであるけれども門外漢たる一般民衆から見ると非常に珍らしい、教育は學校だけの教育と思つて居つたら間違である、學校以外家庭教育、社會教育がある、陳列所の半分以上は家庭教育、社會教育に費される、斯様な譯で世間の人がそれを知るだけでも爲めになるのであるから、教育と云ふ方面から社會教育を目的とする展覽會を開くと云ふことも必要だらうと思ふ、凡そ事はさう云ふ風にちゃんと狙ひ所があつて施設しなければならぬのでありますして、譯もなく盲ら滅法にやると云ふことは不經濟にもなり又下らぬことだと思ふのであります。

そこで吾々としては、社會教育を目的とした展覽會と云ふものは、社會教育の方法の一つとして大切なものでありますから出来るだけ頻繁にやる、歐羅巴では是が餘ほど盛んに行はれて居るのであります、之に依つて社會民衆を啓發することは非常なものであります、それは社會教育の當事者に依つて經營されるばかりでない、色々な方面で經營をして居る、歐羅巴ではどう云ふ人が經營をして居るかと申しますと、個人がやるばかりでない、新聞社と云ふやうな、會社もあれば、或は博覽會會社と云ふやうなものが出来て居て、博覽會を會社で經營することもあります、學校が主催者になる、博物館が經營すると云ふやうなことが盛んに行はれて居る、本日午後には御覽になる時展覽會は文部省が主催して居る、其他圖書館で主催すると云ふことがあつて宜いと思ふ、慶應義塾圖書館などでは頻繁に特別展覽會を開かれて、いつも其狙ひ所が宜いのに感服致すのであります、て圖書館は唯書物を見せるばかりでない、幾らか物を列べて見せると云ふ所にならなければならぬのであります、歐羅巴の有名な圖書館を見ますと、例へば巴里の國立圖書館などへ行つて見ますと、相當な入場料を拂つて入つて本を見るばかりでなく、吾々旅行者が圖書館へ入るのは物を見る爲に入る、無論書物にも珍本古書がありますからさう云ふ物を見る、其以外にも偉人名士の筆跡なども列んで居れば或は碑石でありますとかメダルのやうなもの、色々な印刷、印刷した繪畫、日本で言へば錦繪と云ふやうなものなどが、順序正しく分類して面白く列んで居るのでありますから、何れも圖書館として關係のある物ばかりでありませうが、或意味から言ふと博物館と云つたやうな形になつて居るのであります、それで圖書館として展覽會を開くならば、珍らしい古書であるとか、錦繪であるとか、今御話したやうな偉人の筆跡であるとか、さう云ふ物を集めて、特殊の題目で展覽會を開いて見せると云ふことは、世人をして圖書館に近接せしめるのみならず行つて見ると面白い、興味が起る、趣味、知識の向上を圖ると云ふ社會教育に相

成るのでありますから、圖書館が主催して展覽會を開くと云ふことは頻繁にやつて良いことだらうと思ひます。又子供に見せてならない俗惡な、有害なる圖書を集めて父兄達に見せ、同時に講演會を開いて、お前達の子供は斯う云ふ豆本、忍術本と云ふやうな俗惡な物を見て居る、御注意なさいと言つてやることは社會教育上必要なことである、其處まで圖書館がやるが適當である、諸君の御關係になつて居る所にも縣立圖書館があり、色々な圖書館があらになるのでありますから、社會教育と云ふ意味から圖書館主催の展覽會を御考への中に入れて置かれることが必要であらうと思ひます、或は又色々な學會がある、さう云ふやうなものを諸君が促して展覽會を開かせる、さうして學會が展覽會を開かうと云ふことであれば、諸君が其中の一人に加はつて色々便宜を圖り指導してやると云ふことが必要であらうと思ふ、其他何協會と云ふやうなものもあり又實業の團體もある、それ等には展覽會の必要を知らないで居るのが幾らもあるのでありますから、それ等を刺戟して社會教育に貢獻するやうに指導すると云ふことが、社會教育上大切な仕事だらうと思ふのであります。

今御話したのは展覽會の主催者にどう云ふ種類のものがあるかと云ふことを御話したのであります、ちよつと休んで、次に展覽會に使ふ場所、會場に付て御話をして見やうと思ひます。

展覽會の會場でありますが、是は餘ほど大切な問題でありまして、東京などでは眞に會場に困つて居るのであります、て市と云ふやうな名の附く都市であれば、いつも展覽會に使へるやうな常設の館があることが私は必要だと思ひます、商品陳列館などでは時々展覽會を開催しなければならぬのでありますから、商品陳列館などを少し増築して、其處を一つの常設會場にすることが必要だらうと思ひます、さうでないと思ふと、

教育會などで御催しになる展覽會を見ますのに、多くは學校を使ふものでありますから、二千圓三千圓と云ふやうな金を使つて、氣候の好い時に僅か四日か五日位はか會場が使へない、そんな短い期間の展覽會に二千圓三千圓も使ふと云ふことが彼方此方に行はれるやうであります、是は社會教育の方から言ふて甚だ惜しい、考へものである、どうしても十日以上半月、少し有益な展覽會ならば一ヶ月位繼續させてしんみりと見せることが必要だらうと思ひます、従つてそれを見に来るのも其町の人ばかりではない、近郡或は近縣などからも人を呼ぶことが出来るのでありますから、どうせ開催させる以上は、會場にはゆつくり長く使へる所を撰ぶことが必要であらうと思ふのであります、てさう云ふやうな場所があれば宜いですが、若し無ければ寧ろ學校よりは狭くても議事堂であるとか、町の公會堂であるとか、寺であるとか、半月なり二週間なり長く使へる所を撰びになつた方が宜いと思ひます、さうして十分骨を折つて拵へて、どんな人を入れて教育すると云ふことにした方が宜いと思ふのであります、尙ほ縣廳所在地あたりで二三ヶ月位の開期の大規模のものをやりになる場合には、歐羅巴などの例に依りますと公園地などを塞ぐことは感心しない、東京あたりでも大きな博覽會、展覽會をやる場合には上野公園を使ふやうでありますけれども、あれには大分反對が多いのであります、市民の生活に必要な公園を塞いで這入れぬやうにし、跡片附にも非常な金をかけなければならぬ、さうして又樹は一本も動かすことが出来ないものでありますから非常に不自由を感じる、歐羅巴などでは通例あゝ云ふ所ではやらない、往々三四ヶ月半年間も開會して居るものがありますが、さう云ふ時には大概市街の發達を見越して、神戸なら神戸はずつと西の方へ發達すると見れば、其發達する先きを見越して廣い場所を撰んで、其處へ道路も附け、電燈、瓦斯も引ツ張り、水道も引く、さうして展覽會が濟んでバラ

ツクを壊しても跡に道路も残り、水道も残り、瓦斯も残り、電燈も残る、従つて家が段々殖えると云ふやうになつて新開地が出来ると云ふことになるのでありますから、少し縣が大なる金を投じて後に残るやうに大規模にやる事が却つて利益であります、狭い所で樹を移したり何か無理をしないでゆつくりした場所を取り、場合に依つては其處まで電車を延長するぐらゐのことはあつても宜いと思ふ、歐羅巴では少し大きい展覽會、博覽會を開きます時には、必ず先きを見越して無駄にならぬやうにして居るのであります、其展覽會の副産物として新しい市街が出来、さうして展覽會の一部を永久的の建物にして置けば、其陳列館を其後も絶えずさう云ふ事に使へるやうになるのでありますから、展覽會の場所に付ては永遠のことを考へる必要があるだらうと思ひます、是はどうしても都市計畫に觸れなくてはいかぬ、都市計畫は各都市にあるのであります、其都市計畫を無視して色々な事をやるのは甚だ不經濟であります。

そこで會場の問題の解決が着いたならば、今度は展覽會を經營する大方針と云つたやうなものであります、經營方法と云ふやうなことに段々話を進めて行きたいと思ふのであります、吾々の論ぜんとする所は民衆教育を目的とする展覽會でありますから目的は眞に明瞭である、専門外の一般の民衆が見てよく分る、非常に深い感動を與へるやうなやり方に致せばそれで宜しいのであります、二時間なり三時間なりの極短い時間で手取り早く該博な、若しも之を書物で見れば厚い本を五冊なり十冊なり非常な時をかけて讀破しなければ容易に得られないやうな知識を、百聞一見に若かず短時間に何の抵抗もなく、臆却てなく見て大に趣味を高め知識を廣める、斯う云ふ所が民衆教育の展覽會の狙ひ所でありますから、其目的に合ふやうに展覽會をやさしく、分り易く、面白く拵へることが必要であらうと思ふのであります、所がよく展覽會を致すに付て直轄

學校や色々な所へ御出品を願ふのであります、其場合に或學校からは九尺のケースを取つて置いて呉れと云ふことで、さうして持ちになつたのを見ますと小さい風呂敷に包んだ僅かばかりの品物にあとは其説明を細かく書いた紙を貼るのであります、殆ど説明ばかりであります、それを讀むに凡そ何時間かゝりますか承りますとちよつと一時間かゝります、少なくも半時間はかゝりませうと云ふ、常識で考へても展覽會全體で一時間か一時間半で見て行かうと云ふのに、一つのケースに書いてある説明が、一時間半時間もかゝらなければ讀めないやうな物を列べて何になさるかと云つてお斷りした例があるのであります、それは極端な例でありますけれども、展覽會は一時間か一時間半に見て、分り易く有益で、愉快に見て人を歸すのであります、それへ持つて行つて非常な時間かゝらなければ讀めないやうなものを列べたのでは圖書館と違ひませぬ、辨當を持つて通はなければ終ひまで分らないのであります、一體展覽會はどう云ふ意味で人を呼んで何の爲に經營するものであるかと云ふやうなことが分らないからさう云ふ突飛な、其人は突飛でないかと考へて居つたかも知れませぬが私共から言へば突飛なことである、突飛な考を持つて來たのである故にもう少し分り易く展覽會を造ると云ふことが大方針であると思ふのであります。

それでありますから同じ統計を見せるにしても棒ばかり引ツ張らないで、繪圖に描くとか、形で比較して見せるとか、分り易く致すことが必要であらうと思ひます、併ながら私は今度時展覽會を拵へて見て驚いた、是は大概時計を持つて居る知識階級以上のの人に見せるのであるから少しはむづかしくても宜からうと云ふので、統計表なども一々書き直さないで出して見た、従つて極めて面白くない展覽會が出来た、今度は知識階級の人を教育すると云ふ考へて拵へた、所が豈圖らんや世間は豫期以上のものでありまして、非常な景氣で

昨日などは二萬二三千人も入つた、平日でも六七千人も入る日がある、近頃五千人平均で毎日入つて居る、非常に評判が宜い、さうして中の様子を見ると知識階級の人は無論であります、さうでない人も統計の前に立つて雑誌帳を出して寫して居る、私共考へて居つたよりは世間は餘ほど進んで來た、人の死ぬ原因、人は年齢に依つて死ぬ原因が違ふ、子供の死ぬ原因と中年の者の死ぬ原因と大人の死ぬ原因とは違ふ、それが統計に出て居る、其數字的のものに著目して、雑誌帳を出して寫し取つて居る、さう云ふ物の前には一般の人が皆立つて居る、それを見て私は、今まで民衆を低く見て居りましたけれども、近年餘ほど知識階級が殖えて來たからして、今後はあゝ云ふ物を造るにしても、面白く花々しくやると云ふことも必要であるけれども、同時にまた或度まで數字的、統計的の根據のあるものでなければ一般民衆は満足しない、大ざつばな概論的の時代ではない、必ず的確なる事實を捉へなければ一般民衆は満足しないと云ふだけに知識階級が殖えて參つたのでありますから、今後展覽會を經營するには餘ほど考へなければならぬと云ふことを發見した、此前生活改善展覽會を開いた時に、呉服屋から奇麗な人形などを出させて見ましたけれども、其喝采を博しなればならぬ筈の陳列物の前に一向人が立たぬ、却つて數字的統計的のやうな物の前に人が餘計立つたので、是は變だなど云ふことにちよつと氣付いて居つたのでありましたが、それ程には感じなかつた、然るに今度最も面白くない展覽會を拵へて見て、非常に世間の好評を博し、來る人の態度を始終注意して見て居ると、民衆の變化に實は一驚を喫したのであります、社會は時々刻々變つて行くのでありますから、展覽會の經營方法も土地の狀況に應じた經營方法をしなければならぬ、東京がさうであるから地方でもさうでなければならぬと云ふことはないのであります、唯好評を博し好成績を擧げるのも、失敗に終るのもさわどい所、

建物の加減である云ふことには私は驚いたのであります、て學校の先生に參考になる物を見せたり、お醫者さんに醫療器械を見せたりする展覽會は、どう云ふ列べ方でも一向構はぬのでありますけれども、一般民衆を相手にするものは餘ほど様子を違へなければならぬ、殊に共進會、品評會などに比べますと、民衆教育の目的のものは大分様子を變へなければなるまいかと思ひます。

それで展覽會を開くに付て一番に考へなければならぬことは經費の問題であるのであります、其經費のことに付て少し御話を致します、私はいつも展覽會の御相談を受ける時には、經費は幾らあるかと云ふことを聴くのであります、殊に私は數回展覽會を拵へて見たのでありますが、文部省には展覽會に使ふ經費が少いのでありまして、四五百圓位で開いたこともありすが先づ二千圓位に止まつて居ります、今度の時の展覽會なども國庫の支出する金は約一千圓に限られて居ります、それで各方面の援助であれだけの展覽會を開く事が出來ました、今度は開會中二十五六萬人は入るでありませう、一千圓で二十五六萬人の教育が出来るのであります、展覽會ほど經濟的な社會教育方法は他にないと私は思ふ、斯んな少額の經費で展覽會を開いて居るのでありますから展覽會の經費に付ては絶えず苦勞して居るのであります故に、御開きになるには經費は幾らおかけになりますかと云ふことを一番に問うのであります、さうして第二に、其經費を何うお使ひになりますかと伺つて、經費の割振に付て御參考になる愚見をいつも申上げて居るのであります、何處の展覽會でも經費の使ひ方が要領を得て居らぬ、先づ一番忘れられて居るのは裝飾費であります、會場の入口なり、一つの室の入口なり裝飾が要る、又室内に物を列べるに付ては多少布も要るだらうしリボンや羅紗紙杯も要るのである、其裝飾費と云ふものは殆ど無いのであります、物を心持よく見せるには、背景に使ふ布とか、

色紙とか、さう云ふ物の裝飾費が無かつたならば其展覽會は殆ど興味を引かない、此室の壁などは奇麗でありますけれども板張りの壁の會場では其板張りには奇麗な紙を張るとか布を張るかしなければ不快な感が起ります、どうしても裝飾費に餘ほどの金をかけなければならぬ、先づ一千圓使ふものならば裝飾や陳列の費用に半分位はかけて仕舞はなければならぬと思ふ、リボンを買ふとか經木で出来たモール、經木を染めて種々の色のモールが出来て居る、あれは實に廉いものです、一尺何厘と云ふものであります、それで繪畫寫眞杯の輪廓を取るとか、種々の事に用ゐる、それから畫鋏などをよく使ひますが、畫鋏は金光りに光つていけません、却つて目觸りになる、それで私の所では使ひませぬ、それよりは細六と云ふ釘が宜しい、それを菱形の厚紙を押へにして淺く打つて置けば抜く時も雜作ないし目觸りにもならぬ、それから紙、紙も光る紙はいけない、裝飾には羅紗紙が一番良いのであります、一枚十錢も致しませう、羅紗紙でなくても艶のない色紙、さう云つたやうな材料を餘ほど買はなくてはならぬ、さう云ふ物で展覽が活きて来る、陳列品の集つて来たものを活かす苦心が今日御見學になる展覽會にも相應致してあります、眞に廉い材料を使つて、さうして見た時に大變立派な物が列んで居るやうに見える、それは何かと言へば一千圓の大部分は裝飾費にかつてあると云ふことを御諒解を願ひたいのであります、所が地方の展覽會では裝飾費が取つてない、却つて陳列する標本、模型其他の物を買つたり製作したりする費用が多く取つてある、二千圓三千圓の金を以て展覽會をやるのに、陳列する模型や標本の購入などに多くの金を使つたら其展覽會は必ず失敗である、寧ろさう云ふ物は他から借りるなり、出品させるなり、借入れるなりして、節約した金を裝飾に向けなければいかぬ、次に旅費、辨當代、手當であります、畫の先生、手工の先生はどうしても使はなければならぬ、さう云

ふ入の辨當代、手當、それから出品を促したり物を借りに行く人の旅費、運搬費、斯う云ふやうなものに經費の約半分を使へば宜いのであります、其他印刷費、通信費も要りますが、大體さう云ふ豫算の割振で展覽會が出来るのである、事柄に依つては畫を描かせなくてはならぬのであります、文字を上手に書く習字の先生の力も借りなければならぬ、文字が中々大切でありますして餘り雄筆を揮はれると見にくい、展覽會の文字は活字のゴシック、隸書見たいな、太い所と細い所との無いやうな文字であると一目して分り易い、太い所と細い所とのあるやうな達筆を揮はれると、上手であつても見るに時間がかかる、展覽會に使ふ文字はちよつと見て直ぐ讀める抵抗の少い字形で書かなければならぬ、それ故に畫の先生を使ふやうに習字の先生をも使ふことが必要である、それで經費を幾らお使ひになるか、其經費をどう云ふ割振りでお使ひになるかと云ふ、其金の使途で其展覽會が成功か失敗かと云ふことが大凡分るのであります。

一千圓の金で一つの展覽會をやつて二十萬人を入れ、社會教育として相當の効果を世間に與へ得られるに拘らず地方では、二千圓三千圓を展覽會にかけて、師範學校とか中學校とかの校舎を使つて、ほんの數日の會期で、僅か五萬か七萬の人を入れて居る、是は實に不經濟であり惜しいことである、それだけの金をおかけになるならば二度も三度も展覽會が出来るのであります、さうして二週間とか半月とか續けるやうな方法を講じたいのである、段々地方も知識慾が進んで來ますから、一年中絶えず何か見る物のある様にしたい、殊に人口十數萬と云ふやうな中以上の都會であれば絶えず何かあつても宜い、日本ほど民衆的娛樂機關、社會的教養機關の少い所はない、歐羅巴へ行つて見ると絶えず何かやつて居る、常設の動物園があり、陳列館があり、美術館があり、臨時の催もあり何かしらあるのであるが我國にはそれが少いのでありますから、金の

かゝらない展覽會を一ヶ月二ヶ月位、一年に數度開いて見せてやると云ふことは、娛樂と云ふことから必要であると同時に、之に依つて知識、趣味の發達向上には、費す所少なくして得る所が餘ほど多からうと云ふことを私は深く信じて居るのであります、其證據に一度お試しなさい見物人は仕様がな程入つて來るのです。て時々おやりになることは極必要だらうと思ひます。

經費が極つたら其次に展覽會の蒐集物であります、是は題目から極めてかゝらなければならぬ、通俗教育、社會教育としてはどうしても民衆の實生活に觸れる題目を選ばなければならぬ、時なんと云ふことは人間の實生活に直ぐ觸れる問題であります、或は食物、衣服、住宅、家事、さう云ふやうな消費の經濟なり衛生上なり、社交上なり現實の生活に觸れるやうな題材を選ふと云ふことが一番必要であらうと思ふのであります、さう云ふ問題さへお捉へになれば、必ず其展覽會は成功であるのであります、勿論知識ばかりでない趣味の方面もあつて宜いと思ふ、社會教育と云ふものは知識教育ばかりでない、趣味教育もしなければならぬ、體育もやらなければならぬ、兎に角さう云ふ人間の實生活に觸れる題目を選んで其趣旨に合ふ様な品物を集める、それを集める爲には準備の期間が要ります、それも一年も一年半も前から考へると云ふやうなことはいかぬ、何故なれば實生活に觸れるのでありますから、例へば生活改善を一つ叫んで見やうとか、時間尊重を宣傳して見やうとか云つても、其れを一年も一年半も前から考へると云ふことは出来るものでない、一年後にどう景氣が變るかと云ふやうなことは分らない、それで準備の期間としては、大博覽會のやうなものとは別として、吾々の手でやれる展覽會では先づ半年の準備期間があつたら宜い、半年前に題目を極めたら宜いだらうと思ふ、今度の時展覽會は四ヶ月前に考へて造つたのであります餘ほど忙しかつた、無理な點が多かつたのであります、無理の無い所を言へば半年の餘裕が要るだらうと思ひます。

其の半年の中一ヶ月は何に費すかと云ふと、題目が極つてから一ヶ月は印刷物を造つて出品を依頼する、それが爲には何處へ行くとかどんな物があると云ふことも調べなければならぬ、其題目に付てどうしても無くてはならぬ物はどんな物であるか、其方面の専門家の意見を聴くことが必要である、時の展覽會であれば天文臺へ行つて聴くとか、建築のであれば建築學會へ行つて聴く、工科大學の先生に相談する、食物のならば醫師に相談する、災害豫防のならば警視廳へ行つて相談する、或は内務省の警保局に行くとか、鐵道省に行つて相談するとか、電車の掛りに行つて相談するとか、工場監督官に行つて意見を徵するとか、それらの専門家がおりますから其専門家の意見を聴いて、蒐集すべき品目を定め之を系統的に分類して、印刷した上で依頼狀を出す、此研究調査にどうしても一ヶ月を費さなければいけませんと思ふ、この一ヶ月間で大體の輪廓が出来るのであります、無論註文した通りに物が集つて來はせぬ、豫期した物が無くて外れることもありますけれども、一ヶ月間練つたならば大體に於て宜からうと思ふ、あと五ヶ月間で依頼狀を出して物を蒐集する、其陳列を致すには、五百坪六百坪の面積であれば、半ヶ月あれば大抵陳列が出来る、さうすると中の四ヶ月半で極力物を集める、足らぬ部分は製作する、どうしても無い物は畫で描かせる、統計表は數字だけではむづかしいから書き直すと云ふやうなことを四ヶ月半でやつてのけて仕舞ふ、四ヶ月半で斯う云ふ物が集つて仕舞へば、半ヶ月で陳列すると云ふことで大抵間に合ふだらうと思ひます。

出品の大部分は他に頼む外ない、それを一々製作すると云ふことが出来れば一番理想的には行きますが莫大な經費が要る、民間で半ば營利的に展覽會、博覽會を經營致すのがありますが、さう云ふのが斯う云ふ出

品をして呉れぬかと頼めば、商人は廣告的に商品を出して呉れるかも知れませぬけれども社會教育上有益な物は出して呉れぬ、民間で營利的に展覽會を經營しやうと云ふことであるならば、先刻私の申上げた豫算の割振りはいいかない、一萬圓かけるものならば其半分は油繪なり、バノラマなり、人形杯を使つて直營的に自分で博覽會の中心になる部分を造らなければならぬ、併しながら、諸君が御關係になつて居る官廳なり、學校なり、協會なりで經營する場合には先刻御話したやうな割振りで宜いのでありますが、民間で營利的に博覽會を經營しやうと云ふ御考へであるならば、すつかり豫算を變へなくてはいいまいと思ひます、役所なり公益團體なりが經營をする場合には大部分は、殆ど全體は世間の出品に待つと云ふこととなければやり切れない、ですから其依頼する先きです、無論一部分商人から出させることも必要だらうと思ひます、商品の廣告です、大きな會社でありますと廣告ばかりでない、公益の爲にする豫算を有つて居ります、出品費を有つて居る、それを吾々が利用するので、廣告費なり公益の事に使ふ豫算をちやんと有つて居るのでありますから、それに此方が註文を付け専門家が指導をして、社會教育になる形で出品させる、それが會社の廣告になると同時に吾々の註文通りの物を出して呉れるのでありますから一向差支ない、且つ諸官省なり研究調査所なりは、到る所夫れ夫れ自分達のやつて居る事業を世間に普く紹介をしたい、鐵道省であれば人民に鐵道教育がしたい、民衆に鐵道の知識がない爲に、鐵道を經營する上に非常な損失を被る、怪我人が多く出たり、荷造りが悪かつた爲めに、色々な手数をかけて能率を妨げられる、故に鐵道省としては人民に向つてレールウエーエデュケーションがやりたいと云ふ希望もある、遞信省ならば民衆に貯金をさせたい、簡易保險の思想を普及したいと云ふ要望がある、何處へ行つてもそれ〴〵活動寫眞を使ひ、ビラを使ひ、宣傳をし、人民を

教育して見ないと云ふ希望があるのでありますから、而してそれに使ふ金を持つて居るのでありますからそれを利用する一會社官省で數百千圓もかけて出して呉れますから、文部省として國庫から出して居る金は一千圓、一千五百圓であつても、實際は二萬圓、三萬圓、展覽會に費されて出來て居るのであります、それとなければ逆も出來ない、又三萬圓かゝつても四萬圓かゝつても、何もかも自分で拵へて博覽會を造ると云つても時間が間に合ひませぬ、多くの従業員があつてやれば出來ますけれども、少數の者がやるのでは間に合ひませぬ、各方面の専門家が競争的に意匠を凝して有益な物を出して呉れるからやれるのであります、それ故に出品を依頼する先きの研究と云ふことが大事である、其研究が出來なければ逆も四ヶ月半位で展覽會を造り上げると云ふことは思ひも寄らぬことであります、民間でやる勸業の展覽會杯は大概商人ばかりを相手にして居る、商人は商品の廣告、暖廉の廣告に出すのであります、一小間良い所は五十圓、悪い所は三十圓、二十五圓の小間料を展覽會に拂ふ、詰り廣告料です、小間料とか入場料とか官廳の補助金とか財源です、それで博覽會を經營して損が立つた、得になつたと申す事になる、所が社會教育の展覽會では小間料を取る譯にはいいかない、取らぬ代りに、此方の註文通りの物を出させるとして陳列の場所を無料で提供する、陳列の箱でも何でも無料で提供して居るから向ふても、廣告費の全部を油繪なり、模型なり、色々な物にかけて持つて來る、ですから總て意義のある物が出て來ると云ふことになるのであります、其處が一番苦心し努力しなければならぬ點であります、文部省が支出する一千圓は大抵印刷物來賓の接待費、それから裝飾を加へなければならぬから其裝飾に使ふ材料等に費されて仕舞うのであります、故に大部分の費用は出品者が負擔をして呉れて居る、實際は何萬圓とかゝつて居るのでありますが、其の一部分が政府の負擔に屬すると云

ふことになつて居るのであります、今日も其意味で展覽會を御覽を願ひたいと思ひます。

さう云ふ風にして出品の依頼先を極めるのでありますが、出品目録の印刷物に展覽會をやる趣旨の徹底するやうに、是は社會教育上の必要である、斯う云ふ趣旨で開催致すのであると云ふことを明瞭にし、さうして其趣旨に合ふやうに、左に掲げた物の中適當な物を出して呉れと云ふことにして依頼狀を出すことが必要である、尙ほ御出品下さるならば其の見込を御通知下さい、模型か標本か圖表か、どう云ふ物を御出しになるか、その陳列に要する面積はどの位、平面はどの位、壁面はどの位、ケースが要るか露出で宜いか、近くてあれば直接に話を聴いても分りますが、遠方から送つて呉れる場合にはそれだけの事を書いて貰ふことが必要であります、地方の展覽會などを見ますとさう云ふ打合せが無いものでありますから、自分の方の陳列品は壁面はどれだけ要るか、平面はどれだけ要るかと云ふやうな豫告もなしに勝手な物を出して来る、受取る方でもどんな物が来るか分らない、集つて來たのを見ると、是では逆も列べ切れないと云ふので雜然と無理な陳列をし滅茶なことをやつて居る、ちよつと勸工場へも行つたやうな感じがする、それではいかぬ、豫め壁面が幾ら、平面が幾らと云ふやうなことを極め、光線の足りない所には電燈を點ずると云ふやうにちやんと準備をして置いて、其處へ常嵌めると云ふことでなければいけない、其處まで研究しないで出品を依頼する、出す方も構はずにやるから展覽會が滅茶苦茶になつて仕舞ふ、そこで大約一ヶ月前位になりますと大概集つて来る物が分る、一ヶ月乃至三週間程前になると集つて来る物の内容が分るのであります、そこで今度は標品模型のやうな物が少なくて繪畫寫眞圖表が多いとか或は何うとか云ふやうなことの見當が付くのです、それに依つてケースがどれだけ要る、衝立がどれだけ要ると云ふことが分りますが、陳列場を考慮の

中に入れて、どう云ふ分類に依つて列べると云ふ計畫が初めて極る、其計畫が極つて仕舞へばあとは機械的に陳列されて行くのであります、貴重な物はケースの中に入れる、圖表は壁面に貼ると云ふやうに順序が立つて居るから、送つて來た物は機械的に直ぐに列べることが出来る、そこ迄になるのがむづかしいのであります。

尙ほ御話申上げることがあるかも知れませぬが、大體これだけを御話をして置いて、あとは今日實地を御覽願ひたいと思ふのであります。

二、博物館の任務

學藝の研究と社會教育

今日は博物館の經營と云ふ方の御話を致すことになつて居るのでありますが、一寸順序を轉倒致しまして、博物館の任務と云ふ方から、御話を致した方が宜いと思ひます。

段々各府縣にも、商品陳列館とか、物産館とか、或は簡易なる博物館などが出来るやうに相成つて參つたのであります、社會教育の機關として、海外の諸國では、此等博物館は非常に有力なる働きを致して居るのであります、莫大の費用を投じて、經營を致して居る、博物館は、其の歴史を云つて見ると、王侯の應接間とか云ふやうな所に發達をしたもので、其處に珍品を集めて、お客さんに示し、貴族の豪奢を誇るとか、或は又學者、専門家、物好きが種々な珍しい、資料を集めて、其道の者が見て楽しむ爲めに設けられたもので參考資料、研究材料を蓄へて置く、保存して置く倉庫であつたのであります、所がそれが、段々進んで參つて、非常に系統立つたものに發達し學藝研究の必要なる場所になつて來たのであります。

斯くて王侯或は貴族、富豪が獨占して居つた繪畫は之を持ち出して一般の民衆に見せるやうにし之が美術館と云ふやうなものになり、又其の少數者が道樂にやつて居つた參考資料の倉庫を公開して一般の人民に示して、學藝、藝術研究の用に供するやうになつたのであります、それがもう一步進んで、今日では社會大學と云つたやうな形になり、獨り少數の學者、専門家、物好きが出入りをし、珍らしいものを、古臭いものを並べて置くのと云ふ場所だけにして置かないで、所謂民衆教育、社會教育の機關になつて來たのであります、之れが爲め陳列の模様をすっかり變へて來たのであります、單り陳列の様子を變へるばかりでなく、更にそれに案内者を附けて、説明を行ひ、或は時々講演會を開き其他種々の方法を講じて、一般の人民の知識趣味の啓發社會教化に、博物館が盛に利用されるやうになつて參つたのであります、それ故博物館と云ふものの任務が汎くなつて來て、従つて其の意義が餘程擴張されて參つて來たのであります、故にさう云ふ意味に於て、今後は博物館と云ふものを取扱はなければならぬのであります、從來は博物館と云へば、珍らしいもの、古いものを並べて置いて、それを番をさして、人が見に來るのに委せて置く、座つて居て來觀者を待つと云ふ、状態であつたのであります、今日の新しい博物館の經營法はさうでない、進んで廣告もする、時々特別展覽會もする、活動寫眞も使ひ、幻燈も使ふ、そこに専門家の、教育に經驗のある案内者、説明者も置き、又盛んに館外貸出しもする、見學團體を組織して方々へ引張り廻すといふ様に總て新しい知識、趣味の普及向上を計る中心機關になつて居るのであります、博物館は決して呑氣な場所ではなくなつて來たのであります、さう云ふ意味に於て博物館は社會教育上、今日はなくてはならない必要機關であります、又學藝の研究の上から見ても、今日は缺く可らざるものであります、歐羅巴に留學した人は大學へ行かないで、博物館に始

終出入りして博物館で勉強して歸つて來たと云ふ人もある、向ふては大學に行けないやうな事情のある人は、博物館に行つて研究して、さうして立派な一と廉の學者になることが出来るのであります、でありますから、繁激なる職務に従事して居りながら志ある人で休暇を利用して、始終研して居ることを博物館に行つて確め、さうして立派なる論文を書き、學者になつたと云ふやうな人が幾らもあるのであります、學術研究と云ふ意味から云つても、博物館は歐羅巴では頗る必要な機關になつて居る、殊に今日は民衆教化と云ふ意味に於て、藝術の教育にした所が、知識の教育にした所が、博物館はどうしてもなければならぬ必要な機關に相成つて居るのであります。

それが我國では未だ博物館らしいものが一つもないのであります、一つもさう云ふやうな新しい意味で經營されて居る博物館は遺憾ながら日本には一つもないのであります、でありますから我國の人の博物館に對する考へと云ふものは非常に誤つて居る、誤つて居る譯だ、本當の博物館らしい博物館と云ふものを内地に居つては見るものが出来ないからであります。

博物館と云ふものゝ種類を一つ擧げて見ると云ふと、學校博物館と、公共博物館との二種類あります、圖書館にも學校圖書館と、公共圖書館がある如く、博物館にも二種類あります、それから中央博物館と地方博物館との二つに分れます、帝室であるとか、中央政府であるとか、經營する全國を目的とし、或は世界を對照にして世界の文化に貢獻する爲め内外國に於ける學藝の發達進歩を示す爲めの參考品を一堂に網羅し集めて居る中央博物館と云ふやうなものあれば、又道廳、或は府縣と云つたやうな一地方の産業なり、其地方の歴史なり、の參考品を、陳列して見せて地方人民の啓發に資して居る地方博物館があります、地方博物館と雖

も無論歴史などにありましては、一地方だけに限つたものでない、矢張り全國と關係を有つて居りますから、全然一地方だけのものと云ふ譯には參らぬが、地方的色彩を濃厚にする點が特色であります、この意味の地方博物館と云ふものが、又なければならぬのでありまして、是は海外でも皆、左様なものを經營致して居る、地方的色彩の最も濃厚な強いものは、例へばアルプスの麓に高山博物館がある、伊太利のネーブルスにはベスピアスの噴火で埋められたポンペイの市、二千年前の文明をそっくり地から掘り出して、陳列してある博物館があります、これはポンペイの遺跡と共に離すことの出来ない地方的博物館であります、我國でも地方的色彩の最も強いものは、例へば福岡の東公園にある、元寇記念館であります、陳列品の中には元寇と關係のないやうなものもありますが、大體に於て國運を賭して戦つた、國家の大事變を思ひ出すに必要な參考品を集めて居る、鹿兒島の南州の墓地に建てある教育參考館も其適例である、何れも地方的色彩の最も濃厚なるもので、其當時の種々の遺つて居るものを一堂に陳列して見せると云ふことは人をして大いに感興を催さしめ、又新しい知識を得て満足せしめる事が出来るのであります、さう云ふやうな、地方的色彩の濃厚なるものが到る所にあつて宜いと思ふのであります、それは極く濃厚なる例でありますが、併しながら各府縣で今後經營する府縣立の博物館と云ふものを、皆さういふ風のものにせよと云ふ意味ではない、其の地方の天産産業及び歴史參考品、其の地方から出た偉人に關係あるもの、其の地方から出た大藝術家の作品と云ふやうな各方面の參考品を蒐集陳列して成る可く地方的色彩を濃厚にしたものがローカルミュージアムの特色でなければならぬ、之に反して中央博物館は中央政府の經營、或は帝室の御經營に係かる全國を目的としたものである、従つて全國から集つて來て居る陳列品ばかりである、隨て物品が非常に多いのでありますから勢ひ分科的専門

的の博物館に區分する必要がある、所が地方で、府縣で經營するやうな博物館であると、大都市の様に専門の博物館を、五つも六つも造る譯に參りませぬから、自然一つ所に何も彼も集める、美術も歴史も、自然科学産業に關するものも皆集める、そして綜合的の普通博物館にするのである、大都市の中央博物館が自然専門の特殊博物館にならなければならぬ理由は前に述べた通りであります、であるから先づ東京、大阪、京都の如き大きな都市中心地には、此の中央博物館と云ふものを作らなければならぬ、そして其他の府縣には地方的の博物館が出来ねばならぬ、そして出来るだけ地方的色彩を濃厚にして特に其の府縣の産業なり、教育なりに資する様にしなければならぬと思ふのであります。

以上は理想論であるのでありますが、今日の實際問題として考へると、我國には果して斯う云つたやうな施設があるかどうか、殊に先刻御話をする通り、博物館の任務と云ふものを本當に自覺して經營されて居る博物館があるかどうか、博物館に従事して居るものが學藝の研究に對し、社會教育に對し斯く斯くの職能を果さねばならぬと云ふことを、自覺して經營して居る博物館と云ふものは、遺憾ながらまだ日本には一つもないのである、而已ならず、さう云ふ設備が出来て居るにした所が適當な従業員が果してあるかと云へば、是もない、故に將來、金を掛けて適當な従業員を養成して之を配付して、鞭撻を加へ發達を計らなければならぬ。

右申す通り完成した博物館はないが相當培養すれば段々物にならうと云ふ素地、芽生と云つたやうなものは、必ずしもないのではない、東京に於きましては、各省が大概一つづつ博物館の芽生みたやうなものを經營して居る、農商務省に行けば礦物の陳列館がある、商品陳列館がある、前者の如きは少し手を掛けると相當の博物館になる、帝室では歴史美術の博物館を御經營になつて居る、そこには天産部もあります、各方面と

綜合してある故に前の分類に據りますと一種の普通博物館である、今日は此の中央で經營する博物館と云ふものが段々普通博物館ではなくなつて來て居る、動植礦の天產物ばかりを一所に集め之をナチュラリストリーの博物館、或は歴史博物館、美術博物館と云ふやうな風に、特殊博物館にならねばならぬのであります、兎に角宮内省の經營にはさう云ふものが御有りになる、陸軍省には遊就館がある、海軍省に築地に海軍參考館がある、是は海事の博物館である、此の海事の博物館なども、伯林にある海洋學博物館に相當しますが伯林のは頗る完備したもので、此處へは大學の學生なども行つて始終研究して居るのであります、さう云ふものに較べるとするで芽生に過ぎないのであります、それから鐵道省の交通博物館は極く最近一と月か半月前に出來たと云ふ案内を受けたのであります、是はまだ見ませぬが、鐵道院に於て交通の參考品が若干あつたので、それを公開するやうになつたのであります、遞信省に於ても遞信博物館即ち交通の博物館がある、是はなか／＼よく集つて居りますけれども、併しながらまだ規模が小さく交通博物館と云ふまでは可なり距離があるのであります、内務省には衛生參考館と云ふものがある、衛生試験所の内にあります、一週間に一日公開して居りますが、貸出しを主にして居る博物館で、地方の衛生展覽會等に、參考品を貸出して居ます、是も衛生博物館の芽生であるのであります、文部省には御覽の如く、貧弱なバラック同様の教育博物館があります、之れは科學博物館の芽生があるのであります、是等も博物館と云ふ程のものではないのであります。

それから各府縣はどうなつて居るか云ふと、各府縣では、一番金を掛けて居るのは物産館、商品陳列所であるのであります、是が建築だけは地方博物館として、可成りの形態も備へて居て經費も相當かけて居る、併しながら博物館としての働きをして居るものは少い、大阪、名古屋を始め其他數縣のものを除いては其土

產の物産の委託販賣位をして居るまゝして、御土産を買つて歸る所になつて居ります、尙福岡、大阪、岡山、石川、名古屋等の物産陳列所は、産業の獎勵以外更に廣い意味の社會教育を可なり盛にやつて居てよく使はれて居る、絶へず特別展覽會などをやつて、博物館として活動をして居る、けれども、大體に於きまして、各府縣の商品陳列所は少なからぬ經費をかけて居る割合に博物館らしい仕事をして居らぬ、本來商品陳列館即ちコンマアシャルミウジウムと云ふものは、歐羅巴では我が邦の様にあんなに各府縣毎に一つ宛ない、大抵海外貿易の盛んな大海港都市とか貿易品の製造の盛んな里昂の様な織物の中心市場と云つた様な大工業都市に限つてある、故に我國でも神戸であるとか、横濱であるとか、海外貿易の盛んな所は、實際外國人も、來て住つて居る、それから大勢調査や取引の爲めに外人がやつて來る、又貿易品を盛んに製造して居る都市に於きましても製造家が競争して新しいサンプルを集めたり種々研究を致して居りますから、さう云ふ所に商品陳列館の存在する事が必要である、尙ほ商品陳列館は進んで海外の販路擴張の爲め調査をし、或は關稅運送荷造り、及び商品の包装等種々貿易上必要な事の調査研究の依頼に應じ、商人なり、製造家なりの便宜を圖り、其の地方並に全國の、産業の發展に資すると云ふことは當然のことである、故に前申した様な土地には是非なければならぬ、併しながらあの縣で物産陳列館を造つたから事情の如何に拘らず、此の縣でも造る、隣縣で商品陳列館を設けたから此縣でも是非造らなければならぬと云つたやうな風に無暗に造る性質のもてない、或縣の如きは、海外へ出る物産が殆どない、而して物産陳列所がある、どう云ふ理由かと云ふと其縣の物産を並べて他の縣の人に之を紹介し委託販賣をもする爲めだといふのである、其の位のことなら勸工場へ行つても解る、何も縣が澤山の金をかけて立派なものを造り之を經營するにも當らぬ、他に必要な緊急な施

設が幾らもある。

要するに博物館の經營はどんな種類内容のものをやるのが必要であるかと云つたやうなことを研究した人が府縣にはないのである、中央政府にも確な方針が無かつたらしい、其結果一定の計畫もなく妄りに施設して、各府縣に一つ宛物産館なり、商品陳列館なりがあると云つたやうな變態的の發達を致したものであると思ふ、農商務省の當局者でも、今日の各府縣の物産陳列所の經營方利用法に就ては餘程考へて居られる様で、毎年一度づつ陳列館長を農商務省へ召集して打合せがあるのでありますが、先頃の會にも物産陳列上を適當に利用する方法如何と云ふ様な意味の諮問案が出て居りまして、之に對して所長が種々説を述べられ其れが新聞にも出て居ましたが、産業の獎勵發達の爲めに出來たものではあるが、更に廣く社會教育に之を利用する事が適當でないかと云つたやうな答申も出て居つたかと思ひます、さうなると勸業課だけの仕事でない、學務課の仕事になるのであります、少くとも物産陳列所の經營を學務課員に兼務參與させ或は委員の一人に、學事關係の人を加へるなりして社會教育の爲めの展覽會を經營するとか、或は學校其他へ貸出しを盛んにやるとかしてもつと有効に利用する様にすべきである、社會教育、學校教育に經驗あり、考へのある人が陳列所の經營に御加はりになると云ふことが最も適切だらうと思ひます。

故に私は各府縣に出張して府縣の當局の方に面會する機會のある毎に貴方の縣には斯う云ふ風な立派な陳列館があるけれども、さつぱり役立つて居らぬ、この儘にして置けば無用の長物視される様になる、もつと有益に使つたらどうか、百五十坪か二百坪も建て増しをして絶えず何か展覽會を開催するか教育の參考物を澤山集めて、各郡市等て展覽會をする場合等に貸出すとか、何かもつと地方相應の中央機關として社會教育、

學校教育に、もつと利用したらどうかと云ふことを始終御勧めを致して居るのであります、和歌山縣では先して物産陳列館の改造に着手せられました、前申す通り商品陳列館と云ふやうなものは海外でも普通の都市には餘りない、到る處の都市に大概在るのは、商工博物館でありまして、商品のサンプルばかりでなく其出來る順序やずつと古代から發達して來た模様例へば陶器ならば、其の古い時代に行はれた工場の模型各時代製作品の見本或はそれを割つて、断面を見せ、結晶の工合を示した標品杯も陳列して科學的系統的に並べて居る、それから、海外の參考品杯をも集めて、當業者研究に従事して居るもの、參考に供して居る、殊に其地方が織物地方であり、或は金屬工業の地方であり、或は農業、林業、水産の地方であるに従つて其地方の産業に最も關係のあるやうな參考品を並べてある、さう云う商工博物館と云ふものが、大概の都市、人口五六萬以上位の都會では必ず經營して居る、斯う云うものならば存在の必要を認める地方博物館として、一つあつて宜いと思ふ、和歌山縣の商工博物館は恐らく此の意味のものでありませう、同縣では在來の物産館を壊して、其跡に四百坪程の二階建の商工博物館を造られ、さうして其の近くに在來の物産館がある、其の物産館の側には別に即賣館と云ふものがある、此の商工博物館は同縣の商工業の發達に資する爲めのもので從來の商品陳列所よりは更に職能の廣いものであります、これが府縣商品陳列所改造の一つの實例であります、私は各府縣でも、物産館、商品陳列所は、海外貿易や輸出品工業等の關係から特設して置く程の必要ない府縣では寧ろ改造して斯う云ふものに致したいと思つて居ります。

尚ほ府縣立博物館で、特色を有つて居るのは、山口縣立博物館であります、私はまだ見ませぬが、見た人の話や陳列品の目録を見た所では、府縣立地方博物館としての内容を、段々充實致しつゝあることを認めま

す、唯此の名稱が如何かと思ひます、教育博物館と云ふ名前は冠されて居るのでありますが、内容は教育博物館ではない、教育博物館と云ふものは、どう云ふものであるかと云へば、専ら教育に従事して居る者に必要なる参考品を並べて置く所であり、地球儀とか、教授用掛圖とか、物理器械とか、云ふ様な學校で使ふ参考品を並べて置く所であり、恰度先日御話した、教員が教育會を開いて集まつて來た時に、其の教員の参考になるやうに教授用品其他の参考品を並べて見せる教育品展覽會、教授用品展覽會を常設的にしたものである、始終新しい地球儀其他の器械標品新しく考案された掛圖杯を並べて置く所が教育博物館であり、そして、それは世界の各國でも、中央政府の在るやうな處に大概一つはある、和蘭はアムステルダムに教育博物館がある、佛蘭西の巴里にもある、獨逸には各聯邦に教育博物館の、小さいのが澤山ある、伯林にあるのは、小學校の二階を二三室使つて居る、ニュルンベルグにあるのは百二十坪位の大きい一室から成つて居る、ミュンヘンにも可なり大きいのがある但し一室である、さう云ふ風に各聯邦に大概一つ二つ位ある、そして其の名前の通り内容もさう云ふものでありますから獨逸では教育博物館のことを學校博物館（シュールムゼウム）と云つて居る、學校で使ふ参考品を並べて置く所、それを教育博物館と翻譯致して居るのであります、我國でも文部省に東京教育博物館があるのでありますが、社會教育の必要、通俗教育の必要からして先年來教育博物館を改造して性質内容が變つて來ました教育博物館は従前は所謂教育博物館として經營致して居つたのであります、今では御覽になつた通り寧ろ自然科學の博物館に成つて居る教育博物館としての陳列品の大部分は今も物置に仕舞つてある、併しながら本來の意味に於ける教育博物館と云ふものも矢張り中央政府が一つは經營して宜いと思ふ、大きなものでなくて宜いから地方にもまた府縣で例へば大阪に一つ、仙臺に一つ、福

岡に一つと云つたやうに建設し全國に四つ五つの教育博物館がなければならぬのであります、其處に行くか或は陳列品の目錄を取り寄せれば地球儀地圖掛圖實驗機械標本等總て最新のものを知る事が出来る、出張した序に寄つて見れば最新のものを見る事が出来る、これが教育博物館であります、山口縣の縣立教育博物館はさう云ふものではないのである、故に其の内容と一致する名稱に改められた方がよいと思ひます、山口縣立教育博物館ばかりでなく其他のものも斯う云ふ風に名實一致する様にした方が適當である、文部省の教育博物館も今恰度擴張の途中にあるのであり、過渡期でありますから、其の名と實とが伴はない、追ては改むべきものと思ひます然るに是が爲めに假令一縣でも命名を誤らしめるに至つたとあつては甚だ恐縮に堪へない譯であります、どうぞ今後はさう云ふ誤りのないやうに諸君で御監督を願ひたいと思ひます。

歐米の大都會例へば伯林あたりでは博物館と云ふものは大概大學が利用して居る、大學の器械標本室参考品を公開したやうな形になつて居る、田舎に専門學校を造つた場合には公開の博物館がないから其學校限りの相當なスクールミュージアムが要る中等學校にも必要教授用品を陳列して置く教具室が必要である、小學校も亦同様である、併しながら亞米利加あたりの最近の傾向では各學校に教授用品を一揃づゝを買ひ備へることは甚だ不經濟であると云ふのでセントルイスであるとか、フィラデルフィヤなどでは其の土地の教育博物館なり商品陳列館の教育部なりに幾組もの地理教授、歴史教授、理科教授等の参考品を蒐めて置いてさうして各學校が必要に應じて電話なり端書なりで一吋知らせると自働車で持つて來る事になつて居る、例へば日本の地理を教へるから日本に關する参考品が借りたい、明日の何時から何時迄其の授業がありますと電話で云ふてやると博物館の自働車で日本に關するすべての参考品を幻燈映畫までも持つて行く、學校ではそれを受

取つて日本の風俗習慣を説明する用に供する、日本人の着物は是であると實物で説明する。さう云ふやうに本當の地理教授を致して居る、幻燈を使ふなり本當の實際的の標本を使ふなりしなければ徹底した教授が出来るものでない、斯様な教授用品を各學校で皆蒐めて持つて居ると云ふことは到底不可能であります、それでありますから教育博物館に於てさう云ふものを幾通りも貯へて置いて盛に貸出しをして居る、貸出すばかりでなく近くの學校からは一學級を連れて來て館員から幻燈を使つて説明を聽き實物を見せられる、例へば今日は綿の工業に關して生徒に教へたいと云へば直に幻燈室へ生徒を連れて居つて室を暗くして幻燈を使つて綿の事を十分か二十分話してさうして更に陳列の現場に引卒し今見せた綿は是である、是は綿から取つた絲である、是は實である是は實から取つた油であるといふ様に教へる此のやうな風に博物館は教育上によく利用されて居る、各學校に斯様な設備とし學校博物館を造ると云ふことは容易なことでない、故に博物館を教具のセンターとし市全體の學校が之を共有し其通に使ふと云ふやうなことが最近の傾向であります。

私の處へ地方から來訪され學校博物館を造つて生徒に見せ同時に之を公開して見たいと云ふやうなことを相談になるが或縣などは一郡に二十幾つかの博物館を各學校に設けたと云ふやうな報告が文部省に參つて居る、英吉利は世界中で博物館の最も普及して居る國であるが、それでも尙博物館を公費で建設公開するには人口一萬以下の所では相成らぬ事に規定されて居る、世界中で博物館の一番多い英吉利ですら此の通りでありますから町村などで公開博物館を經營する人口二千か五千の小さな町でするのは以つての外である、どうしても府縣費で經營するやうな所は一府縣に一ヶ所或は二ヶ所位だらうと思ひます、それから郡部で何か陳列館様のものを造らうと云ふことなら郡役所所在地の所で學校の一室か役所の二階にても之を陳列し、さう

も各郡内の子供を引張つて行つて時々見學させる事にしたい例へば昔の鎧、兜、火繩鐵砲の類を各學校に備へ附けて生徒に見せると云ふことは困難なことであるから、郡役所の所在地に來て見せる様にしたい今日各學校毎に一箇づゝのスクールミュージアムを造ると云ふやうなことは聊か時勢遅れの感がします、時勢の要求と相反した施設である、是等も學校を監督する人達が學校設備の研究が不十分な爲めに起る事でありませう、今後の教育上の施設は出来るだけ無駄の無い様にして往かなければなりません、斯う云ふ方面の監督をする人が今少ししつかりしなければならぬと云ふことを私は常に感じて居る次第であります。

三、建築及設備

次は建築及設備と云ふ事に就て御話致さうと思ひます、能く博物館を公園の中などに拵らへるものがありますがさすが之れは聊か古い考へでありまして、出來得るならば今少し民衆の近寄り易い接近し易い所、即ち市の中央に近い所に造らなければならぬ勿論近くを電車ががだ／＼云つたり汽車の線路の近くなどは感心しませぬが出來得るだけ市の中心、少くとも市が漸次發達して行く方面に設けたい、成るべく多くの人が集り易い所に場所を選定すると云ふことが必要である、一寸通りがけに寄つて見るに億劫でないといふことが必要であります、學校などは郊外であつても宜いが、公共的の博物館と云ふことになるとうしても人家稠密なる市の中央部、少くとも其の方面に向つて市が段々發達して行く所に位置を占めることが必要である、さうして煉瓦造なり石造なり鐵筋コンクリートでも宜しいから不燃性のものが必要である、貴重な品物再び得難いものも集まつて來ますし、人からの委託品も多いのでありますから、それにたとへ出品でないにした所が蒐

集品は成るべくなくしたくないのでありますから是非不燃性のものにする云ふことが必要條件であります、文部省の教育博物館なども木造のバラック見たいなものでありますから早く不燃性のものにしたいと努めて居られる、不燃性のものであると云ふことが必要條件である。

博物館を新に造る場合には矢張り學校の建設と同じことに幾らかまだ時勢の必要に應じて擴張しなければならぬ事を見越す必要がある、上に延びると云ふことも宜いが、或度迄以上には、上へ延びられぬから是非横に延びると云ふことを豫想して少しは地面の餘裕を残して置く云ふことが必要なことであります、時勢が進歩して來ると各府縣でも今の物産陳列館では足らぬ、もう少し特別展覽會をやる場所を百坪二百坪欲しいと云ふ様な問題が起つて來る、或は誰かゝら非常な澤山な貴重な物の寄贈を受けたが入れる場所がない、小さな博物館を彼方此方に幾つも造る譯にもいかぬ、勢ひ在來のを擴張し増築すると云ふ事の必要が起つて來るものであります、故に初めから若干の餘地を取つて置く云ふことが原則になつて居る、故に擴張の出來ない様な敷地は初めから撰ばぬと云ふことが必要であります。

次は陳列用ケースの問題である各府縣で始めて陳列館を造る場合によく御相談に應じますが、何時でも看過されて居りますのは陳列用ケースの豫算であります、今日は木造の博物館などでありますと建築費と中に据付けるケースとの新調費とて何方が餘計金が掛かるか分らぬ位であります、御覽に入れました教育博物館などでも建物は十萬圓かそこらかけたら出來るだらう、が中の陳列用のケースも亦矢張り其の位かゝるのであります、四六の硝子即ち横が四尺、縦が六尺、厚さが三分か三分五厘、そして面が磨いてある、普通の硝子である凸凹が澤山あるから人の顔が種々に妙な形に見える、それで磨いてあるから面が平らで見ると

云々本當に物が見える、陳列用の硝子と云ふものは磨きでなければならぬ、三分か三分五厘であれば泥棒の心配もないのであります、故に普通は四六の磨きの三分を使用して居ります、併し已むを得ない場合にはもつと薄い五三と稱する板でも宜い、兎に角磨きを使はなければならぬ、あそこに使つて居る四六は今一枚百圓位します、先達中米騒動で硝子窓を壊された時分には百三十圓から百四十圓して居りました、主として亞米利加と白耳義から來るのでありますが、白耳義で造つたのは今でも百圓程致して居ります、百圓下では買へませぬ戦争前には四十圓か四十五圓で一枚買へたのであります、又陳列館に入つた突當りの正面陳列には大きな箱が要る之れには五十の硝子即ち五尺に十尺のを使用します、五十の硝子は大商店の陳列窓に使つて居ります仲々安くない何百圓とします、勿論經費の都合では五三の硝子、旭硝子株式會社あたりで出來る、五三でも差支ない、五三にしましてさうして硝子の欄間を付け細い棧にさへすれば必ずしも悪くないのでありますけれども先づ陳列館用としては少くとも四六を使ふと云ふことが原則になつて居る、四六の硝子で材料か何か使へばどうしても一と小間小間と云ふのは硝子一枚振り即ち四尺であります、一と小間二三百圓掛る、一と小間二三百圓かゝりますから之を延長すると陳列館のケース全體は何百尺と云ふ延長がありますから結局建築費位かゝつてしまふ、今日迄陳列館の設計に就いて御相談を受けて見ましたが中に陳列するものを買ふ費用は大分取つてあるが、陳列用のケースの費用は頗る僅かしか取つてない、それでは陳列用のケースが一本か二本しか出來ぬ位の少額に過ぎぬ事が多い、さうして中に並べる物品を買ふ費用が大變取つてあります是非非常に間違つて居る、中に並べるものは借りて來てでも並べられる、併しながら容れ物がなければ何とも致し方がない故に、標本を買つたり機械を買つたりする費用をケースに向ける様にして居ります。

さうして陳列館の構造設備上一番困ることは採光の不十分な點であります。此の陳列館と云ふ所は内にケースを置くから一番困難である、勿論學校の教室などの採光も必要でありますが、是は大概分つて居る何尺の窓にしたならば何處迄光りが行くとか開口の面積と床の面積との割合は大抵建築上の原則があるが、陳列館はさう云ふ譯に行かぬ、中のケースの關係から光りの工合が違ふ、窓と陳列用ケースとの位置の關係が面倒である、それに飛んでもない處に柱があつたりすると一層困難になる、又強い光線をケースの硝子板へ真正面に受けると硝子に人の顔が寫つてしまつて鏡になる、中に竝んで居る物がよく見えない、さう云ふやうな鏡にならぬやうに適當な方向にケースを竝べる必要がある、外來の光よりもケースの内から反射して來る光の方が弱いと必ず鏡になる内に電燈でも點けなければ硝子の面から反射して困る故に陳列館の窓はどんな高さにしてどの位の面積にすべきかと云ふやうなことは陳列に當つて居る博物館の専門家でなければ分らぬ、普通の建築の技師などに分ることではない、どうしても陳列館に従事して居る人、又は陳列館専門の建築家に設計をして貰つて天井の高さ窓の工合ケースの配置と云ふやうなものを極めなければならぬ、一旦建築が出来てしまつてからさアケースを造れ、ケースの竝べ工合を考へよと云はれた處が既に遅い、どうしても中に竝べる物品やケースの形狀大小等の計畫が立つてから窓や天井が極まる、中にどんなものを入れるか中の物の研究をしないで家だけ造つてさア渡しますと云ふやうなやり方では成つて居らぬ、商品陳列館、物産館を造るにも博物館を造るにも相當の経験のある者に相談し中に備へ附けるケースの研究をしケースを竝べる方向位置などを極め此處に柱があつても邪魔になるまいとか、或は此處に柱があるからそれをケースの中に入れてしまふとか、通路に柱がある爲めに茫然見とれて居る人が柱で頭を打つと云ふやうなことがあるから柱

なければならぬ、普通學校杯を造る考へては不可ぬ、或縣から陳列館を造ると云ふので二十萬圓許りの設計圖を持參された處がそれには廊下があつたり間取りからして一見學校の教場と同じやうに出来て居て陳列館の建築ではない、普通の建築家では斯ういふ事は解らない、殊に歐羅巴に行つたことのない建築家では解るものでない、日本の建築家にはまだ圖書館、博物館の様な特殊の建築の専門家と云ふものはないのでありますから、吾々のやうな素人でも博物館の經營に少しばかり覺えのあるものが建築家と相談して案を立てると云ふやうなことになるのであります、ケースには今御話した陳列用ケースには種々の型があります、センタリシウケースとかティブルケースとか種々あります、センタリシウケースは四方硝子で屋根も硝子板になつて居る、今日は底の低い床から餘り離れないのが行はれて居る、私の方の陳列館で使つて居るのは英國出来て農商務省が日英博覽會に使つたものを無償で貰ひ受けたものである、一時的の博覽會に使つたケースだから木製の不完全なものである今日は成るべく輪廓の細いのが流行る、輪廓を成る可く細くする、出来得るならば鐵で拵らへる、上野の帝室博物館に御出でになると大分鐵骨の形式のが來て居ります、鐵でなく木の骨にした所が成る可く細く造るさうしないと中に陳列してあるものが邪魔される、太さばかりでなく色合の如きも餘り濃厚なものを使はないで淡い色を使ふ、さうしないと矢張中の物が邪魔され死んでしまふ、陳列館はケースばかりでなく天井や壁の色なども斯う云ふ淡色が可い殊に間色の夏冬通ずるものが宜い、ケースなども恰度柶の木地位の所が宜い、一寸白過ぎるか知らぬが、あれに少し赤味を持たした位がよい、それでありますからケース一つ造るにしても硝子はどれを使ふか骨の色はどうなければならぬかを研究しなければなら

ぬ、又錠前の吟味が一番必要である、博物館は常に泥棒と火事と塵埃と戦つて居るのでありますから、ケースの錠前は上下二ヶ所か三ヶ所掛けられる様にし、それも悉く違つた錠前がよい、それから次は鍵であります。博物館中共通の錠前が必要である所謂マスターキーであります、一つの錠前ですべて開ける事の出来るやうにしなければならぬ、鍵錠前は普通の出来合品は不可ぬ特に注文して造らせる、それも其土地は避けて遠方の土地へ注文する、例へばロンドンならばマンチエスターに注文するとして可成複雑な錠前の構造にする、錠前の研究だけでも非常なものであります、況んやケース一つ造ると云ふことになると仲々専門の知識が要る、さうして尙ほダストブルーフ或はエヤーブルーフの構造にしてケースの内へ外氣の出入しないやうにしなければならぬ、構造が悪いと外で埃が起つと皆内へ入つて終う、埃が入ると品物を傷めてしまう、斯の如く博物館は常に泥棒と埃と火事と戦はなければならぬ。

斯う云ふ譯でありますから博物館と云ふものは専門的知識が入る素人でも誰でも造れると云ふ譯に行きませぬ、特殊の學識経験ある者でなければならぬ誰でも出来ることと云ふやうな考は幼稚な時代のこととあります、次はケースの内に陳列する物品であります、内に並べる物品は餘り錢を出して買はないでも宜い、教育博物館を御覽なさいましたか知らぬが、買ったものは殆どない、建物もケースもさうであります、内に入れてある、物は正博覽會頃から今日まで種々の博覽會展覽會の殘品を貰つて並べてあるのであります、近く北海道で開道五十年紀念の博覽會があり同地産の材木及製工標本一通を貰つた、明治神宮へ阿里山檜の珍木が來たと云へば其の切端を貰ふ、何でも貰つた物ばかり並んで居る、買った物は殆どないのであります、博覽會展覽會などの殘品は實は出品者も跡の始末に困る、持つて歸つても置き場に迷惑する、會社などでは博物館

の様な有益な公共的の事に利用されれば喜んで品物を寄贈して呉れる、朝鮮總督府、南滿鐵道、臺灣總督府、を始め大小の會社から何の博覽會へても出品をして居る、さう云ふものゝ中必要なものを選んで貰ふのであります、故に中に入れる物は府縣でも同様であらうと思ひます、中に陳列するものは他へ出品を頼むか貰ふか澤山です、大體貰ふなんと云ふ考へはいらぬ、故に建物やケースに十分金をかけたならば中に入れる物などは獨りてに集つて来る、豫算の割振りは大體此の位の考へて宜いかと思ひます。

それからミュージアムエキステンションと申しませうか、博物館の作用を積極に外部に及ぼす事であり、ユニバーシティエキステンション、大學擴張運動と云ふものがある如く、ミュージアムエキステンションと云ふものがあらねばなりません、今後の博物館はちつと坐つてお客さんの番をして居る様な消極的經營ではいかぬ進んで世間に廣告し或は屢特別展覽會を開いて客を呼んだり或は品物を盛に貸し出す、或は出張つて行つて説明する、斯う云つたやうに積極的に博物館の効果を學校や地方の展覽會其他種々な處に及ぼさなければならぬ此の如く博物館の作用を外部に擴張することがミュージアムエキステンションであります、社會教育として進んで博物館の効果を社會民衆の上に及ぼすには是非積極的に經營すると云ふことが今日の新しい經營法であります、吾々の關係して居る博物館でも稍、斯う云ふやうな方針で力を入れて居るのであります、博物館を世間に廣告する意味で種々の事をする兎に角盛に館へ人を吸集する事が必要です、今度の展覽會でも十九萬人程入つて居るのであります、一ヶ月になるかならぬに既に十九萬人に達しました、七月三日の閉會迄には二十四五萬を超えるだらうと思つて居ります、それは何かと云へば廣告の宜しきを得て居るからであります、第一に新聞で盛に紹介して貰ふ、辻々に立札を立てる、時の記念日に撒くビラには時の展覽會が目

下御茶の水に開催されて居ると云ふことを書いて置くと云ふ風であります、斯の如く種々とミュージアムエキステンションをやつて居る、尚ほこの展覽會が濟んだら殘品が關西に行くことになつて居ります、これも博物館の作用のエキステンションの一つである。

ミュージアムエキステンションをやるにはどうしても活辯の代りの出来る來觀者の案内の出来る説明の出来る教育上の經驗のある人が要る、教育博物館の建物は貧弱であるが館務に従事して居る人には適任な人が多い。陳列用の繪を描くとか或は物を陳列するとか、或は活動寫眞を映すとか或は活辯の代りをやるとか、或は來觀者を案内して説明するとか夫れ夫れ極めて適任な人が揃つて居るのでありますから博物館の貧弱な割には博物館として活動して居る、ミュージアムエキステンションの主義に依り積極的態度を取つて居るからであります、印刷物で説明案内をする以外に相當な人があつて説明案内をする事が必要である歐羅巴の博物館に行くとか美術館杯にしても田舎から青年團とか普通旅行團體とかが來ると直に案内者が出て來て美術の専門家が来て來て大きな聲をして團體に向つて説明して聞かせると云ふやうになつて居る、それで學校生徒の團體は半學級又は一學級本位でなければならぬ一學校の生徒全體が一團になつて博物館に出掛けると云ふことは最も遅れたとてある、日々の授業の進行上或題目に付て博物館に行かなければならぬ事が起くる、例へば本邦の建築の沿革に就いて今恰度歴史で教はつて居ると云ふやうな場合であると自然歴史の博物館に行かなければならぬことに成る博物館に往つて注文の題目を云ふと館員は宜しい、それじや陳列品を見せる前に先づ以て建築の沿革を一通り十分か十五分間幻燈を使つて話をしやうと云つて、スライドを使つて話をし開かしてくる、それから陳列の現場に案内して見せて呉れる、それでなければ博物館を眞に生かして働かすこ

てあれば時に關する講演會をやる、是はミュージアムエキステンションの一つである、館外貸出は最も重要な活動の一つである、學校に貸出す或は府縣立博物館に貸出す、教育會へ貸出す等である、吾々の博物館でも今に擴張をして大きな物置きが出来るならば貸出品を幾通りも備附けて置いてあそこの府縣の展覽會へ一ヶ月此處の府縣立の博物館に二月とか三月とか云ふ様に參考品を二室三室に陳列する位づゝ貸出す、織物の盛な地方には織物の參考品の新しい物を集めて貸出す、そしてそれが轉々方々へ廻ると引き續いて又新しい物を貸出すと云ふ風にしたい、各地の府縣立圖書館はさう云ふ活動を致して居るのであります、それがそれと同じやうに博物館が館外貸出しを盛にやらなければならぬそれがまたミュージアムエキステンションの一つであるのであります。

それから世間には種々な教育機關がある、圖書館があり青年團があり、婦人俱樂部があり、種々な學校がある、博物館は此等と連絡を取らねばならぬ故に、博物館に従事して居る者は今日學校では何を要求して居るか、と云ふことを能く知つて居なければならぬ、學校では地理教授を實際的にやりたいが遺憾ながら經費がない、隨て適當な參考品が買へない、或は幻燈を使つて歴史地理教授をしたいが幻燈の機械がない、スライドがないと云ふ事情を知らねばならぬ、今日青年團や處女會婦人會は何を要求して居るか、合宿所では何んな缺乏を懇へて居るか、と云ふ事を知らねばならぬ、有ゆる社會教育の機關、學校は今日何を要望して居るか、と云ふことを理解して居なければならぬ、そして其等の要求に應ずる工夫をしなければならぬ、これと同時に博物館は世間に向つて一體博物館といふ所はどう云ふことに努めて居るか、どう云ふ便宜を世間に與へてくれ

るか云ふことを十分知らせなければならぬ、故に學校長杯の集つた場所或は教育會の總會等へ行つて博物館は斯う云ふ作用をする便宜を與へるといふ事を話さなければならぬ、或は婦人會か青年團へ博物館員が行つて博物館には斯う云ふ便利がある、博物館の仕事、職能を十分言つて聞かせなければならぬ、社會教育、學校教育の効果を十分舉げるには種々の事業に従事して居るものが相互に諒解を得て置くと云ふこととなければなりませぬ、青年團は青年團以外の事に何も知らない、そんなことでは駄目である、例へば海事協會と云ふものがある、海員の志願者が近年減る、故に今少し海事思想を普及しなければならぬ海事に關係した宣傳をしたい、と云ふので海事のフイルムを集めて貸出す、海事に關する講演なれば幾らでも講師を派遣すると云ふやうなことをやつて居る、先達も陸奥の進水式がありまして直ぐそれを活動寫眞に撮つて海軍省から海事協會にくれた、それなども何時でも希望者には誰にでも貸出すことに成つて居る、斯う云つたやうに種々な協會其他の機關があつて自分の方の宣傳をして居る、國勢調查局の方では國勢調査の宣傳用の活動寫眞フィルムを作るに相違ない、衛生局では虎列刺が流行れば虎列刺豫防の宣傳用フィルムを造る、鐵道省では鐵道教育用のフィルムを持つて居る、農商務省の特許局では發明獎勵のフィルム十數卷を持つて居る、是等は何時でも貸してくれる斯う云ふやうに到る處にフィルムも貸出せば物品も貸出す講師も派遣すれば出て行つて世話もする、互に國家社會の爲めに盡したいと云ふ要望を有つて居る、故に之れをよく諒解して居て互に利用しなければならぬ、斯う云ふことは一番必要と思ひます、唯孤立して居つてはいかぬ。

尙從業員が自分の従事して居る博物館の任務と云ふものを十分諒解して居て此の任務を發揮することに熱心であらねばならぬ、即ち熱心で適任な從業員が必要である、故に博物館經營に付ては物件費と云ふものは餘り多額な掛金は無いと云ふ事は、大體は人事費に掛ける必要がある通才を網羅する事が肝要である、米國の進歩した或る博物館は經費の九割を人事費に掛けて居る、今日は物よりも入てある、設備も或度迄必要であるが、大概のものは無償でくれる、寄附を仰ぐことが出来る、故に十分其の職能を發揮するにはどうしても人才である、其道に經驗のある素養のある適任の人を得ると云ふことが大切である大分年を取つたからあの男は校長を廢めさせて圖書館か博物館かて一つ使つてくれまいかと云ふやうな相談を私は屢受けます、併しながら段々申す通り、博物館はさう云ふ古手は必要が無いのである、若い人で専門教育さへ受けて居れば是から教育して使つて役立つ様にする事が出来る故に教員や役人の古手は博物館には要らない。私の本日の講演は是だけにして置きます。

四、學校設備の利用

今日の問題は學校設備の利用と云ふことであります、どう云ふ方面の利用かと云ふと、言ふ迄もなく社會教育の方面への學校設備の利用であります、この問題に付て少し御話をして見やうと思ひます。

從來と雖も夏期講習會とか通俗講演會とか、父兄會とかに使用されて居る歐羅巴では父兄會と云ふものがあつて、家庭と學校との聯絡を附けること以外に、學校に父兄を集めて教育をすることになつて居る、父兄を教育と同時に娛樂を與へる事にして居る、即ち音樂會をやるとか、お伽芝居をさして見せる等であります、慰安、休養になる様な意味でやつて居ます、それでそれから伯林杯では、父兄會をやるのは大抵晩でございます、晝は勞働に參りますから晩父兄を學校へ招く様にして居ります、今日は我國の父兄會に於ても社會教育

が加味されて、學校との聯絡を圖り同時に父兄に對して通俗教育をすると云ふやうになつて來た、それから尙青年團、處女會等の集會にも必ず學校が利用され、又學校の圖書室を解放して放課後から夜分にかけて公開する、或は巡回文庫のステーションにする、巡回文庫の停留場に學校を使ふと云ふやうなことが餘ほど普及し廣く行はれて來たやうであります、故に我國と雖も學校設備の利用は相當にして居るやうであります、けれども、尙ほ社會教育に對する學校設備の利用と云ふことは、今少し考へる餘地がありはしないかと云ふことが今日の問題であります。

學校設備の利用が一番盛んに行はれて居るのは亞米利加だらうと思ひます、獨逸にしても英吉利にしても相當に利用されて居るのでありますけれども、學校設備が學校教育以外の社會教育其他に利用されて居るところとは亞米利加が最も盛んかと思ふのでございます、運動場、それから屋内體操場は無論利用されて居ります、それから尙浴室の開放であります、近頃の小學校では、シャワーバスと云つて生徒の爲めの共同撒浴場がある、寒い時は普通湯であります、螺旋を捻ると湯が雨の様に落ちて、身體を奇麗に洗ふ事が出來て非常に心持が好い、新しい學校では大抵さう云ふ浴場が附いて居ります、さうして女の學級の時には女の小使が行つて世話をしてやり、男の生徒の時には男の小使が行つて世話をしてやつて、一週に一遍位は必ず學校で風呂に入れると云ふことになつて居りますこの浴室を學校へ來て運動する青年男女其他に利用させる即ち學校兒童以外のもの社會にも解放する。

それに講堂、音樂の教室、家事の實習室、手工教場、又普通教室なども大都市では毎晩の如く社會教育事業社交團體等の爲めに殆ど占領されて居ると云ふやうな譯であります、此の如く學校の設備が夏期休暇、冬

期休暇は勿論平生も毎晩絶間なく利用されると云ふやうに相成つて居るのであります、どう云ふ譯で亞米利加其他の國では學校の設備の利用が斯様に盛んになつたか、其理由を少し御話して見たいと思ひます。

近頃種々な社會事業、殊に社會教育の仕事が漸く殖えて來た、十四五歳以上の青年男女、嫁入前或は日本で言へば徴兵前の青年男女を工場商店等から歸つたなり打捨て置かないで、適當に之を保護し教育してわき道に反らさぬやうにして彼等が能率を高める必要が増して來た、又結婚をした、ものにしても色々な必要からしてもそつとよく教育をしなければならぬ、普通選舉で市民は選舉權を有つて居るのでありますから、市民としての義務を果たす上にもそつと教育をしなければ共和政治は持ち切れない、勞働者も移民も教育をして亞米利加の國是を徹底させる必要がある、それには時々集める必要がある、それから亞米利加では色々な俱樂部がある、黨派關係や色々な關係で、男の俱樂部、婦人俱樂部、青年男女の俱樂部色々な俱樂部がある、さう云ふ者が時々集つて有益な話を聴く、或は政治上の問題は二つに分れて討論會をやる、或は體操をやるとか、舞踏をやるとか色々な必要が殖えて來た、斯の如くして社會教育を行ひ、或は慰安、休養、娛樂を興へると云ふやうな必要が非常に増して來た、斯の如く人が集まる必要が起れば従つてそれに對する集會の場所が要るのであります、それに一々料理屋を借りるとか、ホテルを借りるとかして居つたのでは逆もやり切れないのであります、偶の集會ならば宜いけれども、頻繁に集めることになつては、有料の場所てやつて居つてはやり切れない、如何に經濟上裕かな亞米利加でもやり切れない、そこで會場不足と云ふことが起つて來て、自然市町村が非常な金をかけて造つて居る建物に眼を著けることになつて來たのである。

亞米利加は御承知の通り土曜日が休みて日曜日には寺院に行くのであります、一週間に五日の授業であり

ますから金曜日の放課後から土曜日、日曜日、月曜日の授業の始まる迄の長い間は學校は空いて居る譯であります、さうして平均の放課時間は先づ午後の三時半、伯林あたりは大抵一時で小學校が休みになるのであります、夏冬を通じてさうである、斯の如く一時に學校が退けるとあとは空いて居るのであります、亞米利加では夏休が長いので、校舎が學校教育に使はれるのは一年間に百八十日、一日に使はれて居るのが七時間平均位でありますから、非常に金をかけた立派な設備の學校が、市町村の造營物としては甚だ不經濟に利用されて居る譯である、それ故に一方種々の集會が料理屋や其他で開かれて居つたけれども、其の公共的建物なる學校を斯う云ふ社會教育なり社會事業なりの目的の爲に利用した方が宜いぢやないかと云ふことになつて來たのである、所謂學校設備のワイダークニス即ち利用範圍の擴張と云ふことが必要になつて來たのであります、其の必要は村落、都市を論んせぬけれども、大都會に於ては一層其の必要が殖えて來たのであります、それは言ふ迄もなく近世經濟上の大變動であります、大規模の工事が行はれ、分業が盛んになつて來たと云ふことが其原因であるのであります、經濟上の大變動と云ふことが然らしめたのであります、從來山間の傾斜地で水車利用の工場が都會に集つて來て大工業が都會で盛に經營される事に成り且つ非常に分業的になつて來た、従つて在來のやうな親方が丁稚小僧を置いて家で教育する徒弟制度の破壊となり、補習教育の必要と云ふことが起つて來たのであります、即ち丁稚小僧に實業補習教育を與へなければ逆も今日の分業的な勞働に従事させることが出來ぬ、商賣でも工業でも出來なくなつて來たのでありますから、それで十四歳で小學校を出た青年男女を再び學校に收容して、每晚手工教場を使ふなり色々な教室を使つて補習教育を與へると云ふ必要が一つ殖えて來たのであります。

それから今二つは、大工業の組織になり、非常に大規模に生産が行はれるやうになつて來たものでありますから、資本金と勞働家とに社會が横斷されることになつた結果貧民が殖えた、少數の富豪、大多數の貧民が出來た、昔の小規模の産業時代の如くではなくなつた、富の程度が甚だしく懸隔して來た結果、富豪は別荘を有つたり、大邸宅を構へたりする様になつた、然るに大多數の人民は狭い所に住ひ、それから夫婦共稼いで工場に行く、甚しきになると子供も工場にやらなければならぬ様になつた、隨て母親が家に居つて嫁入前の娘を教育すると云ふことは出來なくなつた、是が爲めに家庭に一大缺陷を生じて來たのであります、一國の健全なる分子が怪しくなつて來たのであります、此の經濟上社會上の大變動は獨り米國ばかりでなく歐羅巴各國の等しく受けた一大影響でありまして、此儘で置いたならば、一家の健實なる慈母たり能率ある主婦たるべき資格を娘達に與へる事は出來ない、さう云ふやうなことから小學校で家事科に重きを置く様になつて來たけれどもそれだけではいけない。

今迄のやうに母親の膝下に置いて教育した機會は無くなり、亭主は勿論工場に行く、細君も赤ん坊を托兒所に預けて置いて勞働に往く、子供も小學校を卒業すれば工場へ稼ぎに行つて居ると云ふ風でありますから家は留守勝になるのであります、それで細君なり老人なりが終日家に居つて、娘を膝下に置いて教育した時代に比べると、家事教育の機會が甚だ少い、家に居つて實際的指導する時間がない、それでありまして、どうしても學校の教室を解放して若い娘達を集めて、料理の仕方、赤坊の行水の仕方、乳の飲ませ方、牛乳の扱ひ方、其の他色々の事を母親に代つて教育しなければならぬやうになつて來た、是が嫁入前の娘や若い細君等を一緒に屢々學校に集めて晩や休日に教育しなければならぬ必要の起つて來た理由の一つであります。

殊に貧乏人の殖えて来た結果住宅が密集し且つ一軒の家に幾家族も住む事になつて来た。二階三階四階五階と云ふやうな家で、其各階が澤山の室に仕切つてあつて、それぞれ身分に應じて必要なだけの室を借りる貧乏人は地下室の暗い所や屋根裏の安い室を借りて住む、そして収入の多い人は二階或は三階などの見晴らしの好い所を七室も八室も借りて居ると云つたやうに一軒の家が多數の家族に依つて占領される、そして好い室に住つて居る人は澤山の廣い部屋があり居心地が良い或は晝の中は店に居つて、夜は郊外の住宅に行つて、別荘のやうな庭園の廣い所で良い空氣を吸ひ幸福な生活を送つて居る、けれども大多數の人民はさう參らない、甚だ狭い所にごちやゝ非衛生的な密集生活をして居る、従つて國民の健康の上にも大に影響する。

現に東京あたりでもさうです、東京の下町を歩いて見ると大概の家は二階を人に貸して居る、夫婦者や獨身者に貸して居る、甚だしいのは六疊一間で三夫婦寝ると云ふやうなのがある、どうして寝るか知りませぬが、さうでなくても十八九の娘を頭に五六人の家族が一つ部屋に寝ると云つたやうなことが工業地區へ行くと珍らしく無いのである、さうして異分子が二階や障子一重の隣室に住つて居ると、自然それが家庭に風波を起し風俗を破壊する原因に成る故に大都會では今日住宅問題で非常に悩まされて居る、此の儘に打ち捨て置いたならば風教なり衛生なりの上に非常な影響を與へる、幾ら學校教育で努めても一方で惡感化を受けざるを得ない、我國も歐羅巴に於けると同様今日はさう云ふ狀態に迫られてゐるのでありますから、住宅問題は都會に於ては大に研究しなければならぬことになつて来た、今日地方から東京へ轉任などして來ると一番に困るのは住宅である、借りたくも借家がない、借家の不足は非常なものである、今申したやうな情けない生活をして居つて尙且不足であります、要するに是は家が足りない、團體の事業か或は株式

家を澤山に造つて供給する必要がある、そしてそれへ電車も延長する、水道瓦斯も供給する様にしたい、歐羅巴の例を申し上げますと勤め人は大概郊外に住んで日々市中へ通勤をして居る、歐羅巴では此の郊外住宅とか田園都市とか云ふ施設に既に數十年前から手を著けて居る、我國でも歐洲大戰以來急に大規模の工業が發達し都市が膨脹して来た爲に、何處でも工業的都市では住宅問題に悩まされて居るのであります、さう云ふやうな結果どうしても工場で疲れて歸つて来る労働者或は勤め人に廣い空氣の良い所で活潑な運動をさせたり十分の休養を取らせたりする場所が必要になつて来た、商店は勿論工場も決して體育にはならぬ所であり、すべて工業は身體の局部、例へば眼とか、指先とかだけ非常に多く使用する、身體全體平均に調和的に動かすと云ふことは甚だ少い、一般に工場生活ほど不養生のものはないのであります、故に商店なり會社なり工場なりで晝の中に働いて来た人達殊に青年の男女を場所の廣い、空氣の良い運動場などに收容して盛んに運動をさせて元氣を恢復させる、慰安娛樂を與へる、休養をさせると云ふ必要が非常に殖えて来た、衛生の上から見てもさうであるが、夜分の如きも彼等を好い所へ收容してやらぬと自然良くない所へ出掛けるやうになる、小學校の運動場雨中體操場利用の必要が一層殖えて来たのである。

殊に今日の様に狭い所に労働者がごた／＼住つたり、妄りに貧民ばかり殖えて来た結果は、社會に非常に惡德が増して来た、色々な弊害や犯罪が増して来た、殊に少年犯罪が殖えて来た、病人が殖えて来た、救貧、防貧、犯罪の防止、青年の保護救済等の必要が益急を告げて来た、それ等を豫防し改善するが爲の社會的教育、市民の道德、知識の程度を高くする爲めの施設が益必要になつて来た、歐羅巴、亞米利加を通じ大都市で

は夫れが痛切になつて來た、我國に於ても大都會に於ては丁度亞米利加、歐羅巴の都會の如き狀態に今日ありつゝあるのであります、此事は國として大に考へなければならぬのでありますから、近來府縣市或は各省に社會局課、社會教育課と云ふやうなものが出來、或は社會事業に従事する者の講習會或は常設の養成所を造る事になつて來たのであります、一方社會事業の中の一つである社會教育に於ても亦、同じ理由に依つて其の必要を一層痛切に感じて來たのであります、社會教育の必要と云ふことは開會式の時なり其他の機會に於て普通局長其他の方から話をされたことと思ふのであります、斯う云ふ狀況になつて來たのでありますから、其の結果今日の不幸の狀態を改善救済し且つ今後の惡化を豫防して行く爲に、小學校を出て更に高い教育を受ける事の出來ない青年男女や丁稚小僧に特殊の教育を與へなければならなくなつて來た、即ち社會教育の一つとして補習的教育が青年男女に盛んに與へられることになつて來ました、實業補習學校が目下の接迫した問題になつて居りますけれども、我國の補習教育は大概普通科の補習教育でありまして、歐米國の様な實業補習教育は甚だ普及して居らぬ、徒弟制度が廢たり職業が非常に殖えて夫れ夫れ分業的になつて來た爲に特殊の補習教育をしなければならぬと云ふ意味の所謂實業補習教育は、歐米諸國の様ではない、彼國では之れに非常に力を入れて居りますが、我國の補習教育はまだ其處まではいかぬ、歐米國では經濟上の大變動に促されてさう云ふやうになつたのであります、我が國今日の實業補習教育は一向微々として振はない、東京大阪に二つ三つ宛、神戸其他に一つ二つ出來たとか云ふやうな憐れな狀態にあるのでありますから、我國では殆ど未著手の狀態にあると言つて宜い、今日のやうな補習教育は義務教育の延長に近いのである。歐羅巴の小學校は手工が金工と木工とに分れて、金工教室と木工教室とあつて、木工では手細工の外轆

轆細工をもやる、金工ではダイヤバシがあつて鐵を削つたり穴を開けたりする、單にハンダ附ばかりではない、それで斯んな設備があるから十四歳以上の者には學校を解放して或程度の職工教育が出来る、女子に對しても同様である、もと娘さんの職業は何かと云ふと、人の妻になつて家政をやることと云ふことであります、料理、洗濯、育児と云ふやうなことが女子の職業教育でありますから、學校の家事科の實習室を解放して嫁入前の娘達を集めて職業教育をすると云ふことになつて來たのであります、それに一般市民全體の知識趣味を向上し思想を高尙にする爲め、殊に市民としての權利義務を完全に果たさす様にする爲め、即ちシチズンとしての教育を與へる爲めに學校で公開講演を行ふ、亞米利加では公開講演には特に金をかけて非常に之れに努めて居る、私の極く親しい友人である一亞米利加人は、曾て高等師範學校の御雇教師として日本に來て居た人でありますが、今ニュージャージー市の一中學校、テクニカルハイスクールの教頭をして居ります、此人は教職の餘暇を以て諸方の公開講演に頼まれて居る、日本に長く居つたと云ふ爲に日本人の生活狀態、日本の國情に明るいと云ふ處から、日本の事に付て一席の話を聽く爲めにひつ切りなしに彼方からも此方からも招かれる、幻燈を使つて日本の事情を話して居られる、これが爲に私の所へ始終手紙を寄越して新らしい幻燈のスライドを送つて呉れと言ふて來ますから、新たらしいスライドが見附かると二十枚三十枚づゝ供給して居ります、さう云ふ風に公開講演が盛んに行はれて居る、従つて其の集合する場所も今迄の俱樂部とか何とか云ふものだけでは足りないと言ふことになつて來たのであります、隨て學校の設備を利用する必要が生じて來たのである。

其の他夜分に社交的の種々な集會が盛に行はれる、此等頻繁に行はれる社交團の集會に學校が利用される、

即ち社會の各階級の人、富豪も集まる、貧乏人も集まる、此等の人が集つて來て舞踏をしたり、或は飲食を共にしたりする、社會が經濟上の變動の爲に横斷されたのでありますから、上下意思の疏通、和親を圖ると云ふことの爲め社交的の會合が益必要になつて來たのであります、農村では地主と小作が一緒になると云ふ機會を造らなければならぬ、此機會に互に意思の疏通を圖ると云ふやうなことが必要になつて來たのであります、地主が小作人、傭人などに對して相當同情を持ち、又勞働者が資本家に對して相當な諒解を得ると云ふやうなことが必要になつて來たのであります、危険な思想を緩和し其の惡化を防止する點からさう云ふ施設に力を入れなければならぬ様になつて來た、斯様な譯で學校の設備を以上の如く種々の目的に利用すると云ふ事の必要が非常に増して來たと云ふことを御諒解を願ひたいのであります。

それでどう云ふ風に學校の設備が利用されるかと云ふ各論に入つて見たいと思ふのであります、其の第一は運動場の利用であります、運動場と云ふのは普通謂ふ運動場の意味でなく校地内の一部分である所の運動場であります、村落の學校になりますと、校舎以外の所はすべて運動場と云ふやうなことになつて居りますけれども、校地の内に學校園もあればスクールヤードと云ふ幾らか裝飾をした庭園もあります、而して其の外に専ら生徒の運動に使ふ運動場があるのであります、其の運動場は本當に運動に適するやうに地盤が出来て居る、それで氣候の好い時には外で運動をする、雨や雪の降つた時には屋内で運動するのは當然のこととあります、屋内の體操場の設備がよく出来て居る、大抵向ふては體操をやる時には着物を着換へる、故に更衣室チエンジングルームと云ふのがある、此處で着物を着換へ靴を穿き換へて元氣よく體操をやる、汗を出してづぶ濡れになる、其れを其の儘にして置くと感冒肺炎、肋膜炎の原因になると云ふので、運動した後には

黒い幕の下つた内に洗面所の様な設備のある所へ入つて眞つ裸體になつて身體を洗ひ、着物を着換へて教場へ行くなり家へ歸るなりする、日本の學校ではまださう云ふ設備は行はれて居らぬ、近來我邦の青年男女の疾病死亡の率が歐羅巴、亞米利加に比べて多くなつて來たのは或は學校の衛生設備なり、青年男女の衛生思想の缺乏と云ふ様なことが其の原因の一部を成して居るのではないかと思ふのであります、向ふの學校の先生は教授法の研究もやるけれども一體に常識があり科學思想が進んで居て殊に衛生の思想が上下とも發達して居ります、従つて汗でづぶ濡れになつた生徒の身體の跡始末杯まで研究して居てさう云ふやうな設備をして居るのであります、我國の如きも段々體操服に着換へる、それから體操した後ではどうさせると云ふやうなことも考へなければならぬ。

兎に角歐米の學校にはさう云ふ設備がありますから、毎日午後になつて工場から歸つて來た娘なども學校に集つてロウンテニスやバスケットボール杯をやつたり、其他色々激烈な運動を盛にやる、さうして發汗すると學校の浴室、之れは所に依つては無料、又は僅かな料金を取るのであります、其のシャワバスに行つて身體をすっかり洗ひ拭つて、着物を着換へてせい／＼して家に歸つて晩食の食卓に着くと云ふやうにうまく行つて居るのであります、運動場に風呂場は附き物であります、それで近頃亞米利加の都會の小學校では晝夜二回に學校運動場を使はせる、晝の組は午後三時半に學校が退けると六時か七時の晩食までの間、體操の先生を一人附けて置く、それも市内のどの小學校も皆と云ふ譯にはいさませぬから東區に一人西區に一人とか、或は京橋區に一人日本橋區に一人と云ふやうに體操の先生を女の組には女の先生、男の組には男の先生を附けて本式にやらせる、さう云ふやうに社會教育なり體育なりの指導者を置く事に、市なり區なりで相當の金をかけ

て居るのであります、又晩になると運動場にアーケ燈をつけて、真晝の如くに照して、其處で運動もやる、室内の體操場では舞踏もやる、ピアノを弾く人をも雇つて置く、すべてそれ等の指導者は皆有給でやらせて居るのであります。

それから尙ほ小學校の運動場が運動に利用される以外、更に校庭が遊歩休養の場所に用ひられる、都會では小公園の必要が多いのでありますが、追々空地が少なくなつて來た故に近頃新設される小學校は垣根を撤廢して仕舞つて、さうして日本銀行の前庭のやうな風に、道路との界には花崗岩の小さい柱を立つて鎖ぐらゐを附けて居る、そして校庭は芝生にし草花などを栽えて奇麗に造つてある、出來るだけ奇麗に裝飾してある、我邦で見る様に黒板塀で圍つて仕舞つて中には草一本も生へて居ないと云ふやうな殺風景なことではいけない、門を撤し黒板塀を撤し、道路との界は鎖ぐらゐで跨いても入れるやうにする、さうすると午後になると夫婦者や何か乳母車に子供を載せて遊びに來る、學校を小公園扱にして社會と學校とが接觸をし、學校へ入つて其處で運動を見るなり或はロハ臺に腰を掛けて休むなり、尙又學校の前庭には泉水があり噴水がある、往々動物も飼つてある、子供を樂しませるやうなことに學校が使はれる、慰安、休養、娛樂の場所に使はれる、今日は學校なり、博物館なり、圖書館なりすべて公共的の建物を黒板塀で取圍ひと云ふ様なことは行はれぬ、左様な事は古い考へになつた、隨つて大都會に於て富豪が廣い庭園を圍つて之れを獨占して獨りて樂んで居ると云ふやうなことも時勢遅れてある、歐羅巴では富豪の庭園は、安りに人が入らぬやうに鐵の垣で取巻いてはあるが外から透し見の出來るやうになつて居つて、決して日本のやうな牆壁は無いのであります、それ故に街路と私人の庭園と連絡して居て道路を散歩して居つても眞に心持が宜い、さう云ふ風に向ふては一般の人

の考へが社會的民衆的になつて來た、出來るだけ開放して公衆と樂を共にすると云ふやうな開けた考へになつて來て居るのであります、自分さへ好ければ他人は何うても宜いと云ふやうな考へはない、さう云ふ主義で住宅が出來て居る、日本では住宅も改良しなければならぬが住宅よりも先づ學校の方を變へなければいかぬ、幸ひに小學校などは大體歐羅巴風の建築に出來て居るから實行がし易い、小學校にそれが實行出來れば圖書館、博物館も同時に實行が出來るのであります、さう云ふ風に成る可く解放的に學校の設備が出來て居り運動場にはアーケ燈が點いて居れば晩に行くことも出來るし、社會と學校が自然接近して來て、自分達の公共的の建設物と云ふ考が増し社會の人がよく利用する様になる、其の代り學校にはそれ相應の設備が要る、即ち放課後外から人が集つて來て體操をやるには體操の主任者が居り、女の子供に舞踏を教へるには女の指導者が居る、それに確な小使が居つて其小使が鍵を握つて取締を嚴にして居る、又相當な有給の人が居つて學校の建物を管理すると云ふやうに秩序が立つて居る、東京でも嘗て小學校の運動場の解放をやつたことがありますけれども、體操教師もなければ管理者も居ないので子供が寄つてたかつて學校の設備を壞して仕舞ふ、そして運動場の解放は駄目だと云ふことになつて終つた、故に解放するには相當準備が必要である。

英吉利のロンドンでは夏季小學校の運動場を解放して、天幕張りの家を造つてやる、附近の者が子供を車に乗せて遊びに來れば、その中に入れて面白く遊ばせる、即ち小學校が保育所に利用されて居るのである、さうすると市役所からは其處へ育児婦を派出して其機會を利用して母親達を教育する、子供を一々診てやつて此子供は醫者に診せなければいかぬとか、一體どうして乳をやつて居りますかとか、色々育児に付ての指導をする、母親を教育して赤ん坊の死亡率を減らす事に努めて居る、幼児の死亡率を減ずると云ふことは各

國の大問題でありますから斯んな所にまで努力が行き渡り、有ゆる機會がよく利用されて居る。

學校の運動場は亞米利加では十四歳以上の男女には無論使はせるのでありますが、紐育州のローチエスタ市では、五十人以上の團體で平均毎日三十五人出席するものには無料で體操場の使用を許し、市から體操の教師を出張させる事にして居る、けれども二ヶ月續いて出席が二十人に達しない場合は其の許可を取消す事に規定して居る、而してさう云ふ條件に該當する團體でさへあれば晚でも晝でも體操の教師を出してやつて便利を與へて居る、英吉利のロンドン市其の他では一つの學校を指定して晚に其處へ子供が集つて來る様になつて居る、所謂イブニングセンタ―でありまして、每晚其の學校へ子供を集めて遊ばせると云ふ組織が出来て居る、各學校交替で一週間に二回ぐらゐづゝ番が來て其處の教師が預つて面白く遊ばせて呉れる、但し成人の家に居らぬ家庭か、又は晚に親が仕事に出て家に居らぬ家庭の子供は特に每晚來ても宜しい、運動場へ出席しても差支ないと云ふ特權を與へてある、之れは勞働者の子供などが兩親の不在中に悪い風に感染しないやうに注意をして居るのであります、東京市にも社會局などが出來たのでありますから、段々さう云ふ様な兒童保護の施設に力を入れなければなるまいかと思ひます。

體操場に次いでよく使はれるのは講堂であります、是は我國のやうに講演會や父兄會位ではないのであります、彼地には澤山の社交俱樂部がありまして、さう云ふ俱樂部の集會は小學校で催され講堂が其の中心になる、夏は餘り使ひませぬが、冬秋の夜の長い時になりますと、丁度ソシアルシーズンになりますから、さう云ふ團體が盛んに講堂を使ふ、講堂に集つて音樂會をやるとか、講演を聴くとか、舞踏會をやるとか、活動寫眞を見るときか、素人劇をやるとか、種々な娛樂社交修養の目的に使はれる、勿論さう云ふ場合に要する總

は其の設備は市が補助してやる、電燈もつけなければなりません、ストーヴも焚かなければなりません、それ等は皆市や區の費用でやつて居る、そしてまた一週間に一度位は每晚學校に集る連中が食事を共にする、食事も外の料理店杯ですと大變高くなる、それが學校で婦人の俱樂部員が家事教室で料理をして學校の道具を使つてやるのであるから費用が頗る少して済む、亞米利加には一滴の酒もないのでありますから、酒拔のあつさりした晚餐會、懇親會が學校で催される、學校の校舎がさういふ様な目的に活きて働くこと云ふことに相成つて居るのであります、さう云ふ意味で近頃出來る小學校は講堂の構造なども大に變つて來た、講堂の事を從來レクチュアホールと云ふことになつて居つたのでありますが、近來はレクチュアセアターと云ふやうになつて來たのであります、勿論講演もするのでありますが、近來は講壇が舞臺になつて居つて活動寫眞、幻燈の設備が屹度ある、さうして舞臺の後ろに背景幕がある、其の幕を引くとそれが色々な景色になる、所謂書割になつて居るのである、甚しきになると脚下から光りを探るフットライトの設備さへある、舞臺で踊つたり演劇をやつたりするのがフットライトで照らされる、尙ほ場合に依つては色の光線を使ふ、青い光り赤い光り舞臺の人を照らして種々に變化させる、さうして其舞臺の後ろは樂屋になつて居る、講堂の兩側には棧敷がある、階下には固定してない動かす事の出來る椅子が置いてある、舞踏などをする時には、其の椅子を取り去つて廣く舞踏場に使へる様になつて居る、さう云ふやうに學校の講堂が、兒童を教育するのみならず廣く社會教育、社交、娛樂と云ふやうな目的に利用する意味で近頃改造されつゝあるのであります、日本でも今後は折角新しい學校を造るならば、さう云ふ廣い意味で設備する方が時勢の要求に合ふと思ふのであります。

次は教室の利用であります、之れには普通教室と特別教室とありますが、普通教室は色々な社交俱樂部なり青年團處女會、其の他色々なものに依つて毎晩使用される、之れには毎晩平均幾人以上出席するものに限り無料で使はせると云ふ規定が出来て居るのであります、或組は誰かの文學の講義を聴く、セクスピアの脚本の講義を聴く、或組は法制上の事に付て討論會をやる、と云ふ様に色々な事に利用される、普通教室には皆電燈の設備が出来て居りまして、俱樂部員が細かく分れて色々な事に使用します、特別教室になりますと、女の組は家事教室に於て料理の實習を授けられ、或は或期間ずつと續けて料理の講習をやる、と云ふやうな風に使はれる、若い細君、嫁入前の娘杯を集めて、親に代つて料理の仕方、パンの作り方其他色々な事を實習させると云ふことに家事教室が利用される、彼地では家事教室がある、學校食事場即ちスクールランチオンがあるのでありますから、小學校を參觀して居つても茶時になるとお茶を持つて来る、子供が何處からかお茶と菓子運んで来て面くらつたことが度々ある、授業を參觀して居つて紅茶を飲み、菓子を御馳走になるのであります、又明日は受持の先生の御誕生日であると云ふやうなことがあると、家事室で菓子を前に拵へて置いて、子供がお茶を拵へて、教場で先生と一緒に茶を飲むのである、其の時には先生の卓子を草花で裝飾し、學級教室は色紙で裝飾する、總て子供が發動的にやる、極く社交的に出来て居る、日本の在來の風とは大に異ふ、そこらは今後の學校の公民教育として考へなければならぬことと思ふ。

自治團體が一つの學校を建設して居るのだ、其の學校を火災杯の危險が無い限り、學校で相當の取締を付けて、社會民衆の使用に供し自治體住民の生活狀態を改善向上する爲め社會教育、民衆の娛樂、慰安、修養の爲に利用する事は頗る當を得たものである故に今後は段々さう云ふ機運に向けて行かなければならぬと思ふの

であらう、來には手工の教室であります、是は先刻御話をした通り、向ふの手工教室の設備は本邦の比でない、故に學校の手工教場を使つて之れに相當の教師さへ附ければ立派な實業補習教育になる、さうなると小學校の設備に金をかけても意味が出来、子供に一週間に二度や三度使はして居つたのでは甚だ不經濟になるのであります、故に良い先生を置いて晩も晝も盛んに利用される様にしたい、是が一國工業の發達の基礎になるやうな意味で盛んに利用されたならば、思ひ切つた設備をしても生産的である、不經濟でない、日本の高等小學校は一週六時間の手工があるものであります、尋常小學でやつた事の復習をやつて居ても仕方がないのでありますから、今少し程度を進めて機械を使つて鐵を削り穴を開ける位はやらなければならぬ、さうならなければ、農業科と對立して今日六時間も手工を課して居る意味は沒却されるのであります、農業科の如きは農學校出の相當しつかりした人がやつて居りますけれども、手工科の方は一週六時間も教へる教師としては餘りに貧弱である、恐らく良い設備をしても其の設備が果して十分に使へるでせうか、工業科は農業科に對抗する位にしなければならぬのでありますから、學校の設備を良くすると同時に良い教師を置く事に同時に社會教育にも之を利用する様にしたい、段々今後の學校設備と云ふものはさう云ふことを考への中に置いて、思ひ切つた設備をしてかゝらなければならぬまいかと思ひます、さうならなければ今日の高等小學校の手工科などは自滅であると思ひます。

もう一つはスクールライブラリーの利用であります、學校圖書館の利用であります、是も米國では校外の民衆に利用出来る様夫れ規定を設けて居るのであります、例へば毎日其處で本を讀む人が二十五人を下らぬとか、貸出冊數が二十冊を下らぬとか云ふやうなものに對しては、學校の書庫を解放して、圖書係を

出勤させて本の出し入れの世話をさせる事にして居る、書庫を解放する以上は圖書係を出勤させなければならぬ、従つて手當を與へなければならぬ、一定の出席者があつて一定の冊數の出入りがなければうっかり開放する譯にいかぬ、これ等も規定を設けて居る、さうして市民の利益を圖ると云ふやうな事になつて居るのであります。

要するに斯の如く學校の特別普通の教室なり總ての設備を社會に利用せしむると云ふことになれば、それだけの消耗品費も要る、設備もせんければならぬと云ふことは當然であります、又其指導なり管理なりに有給の人が要る、さう云ふことに向つて學校の教師杯を無手當で使ふと云ふことは絶対にないのであります、日本では視學とか校長さんとかは色々な公共的の仕事に時間の制限もなく使はれる様な傾きがありますが、歐羅巴亞米利加では左様な事はありませぬ、人の活動力には限りがある、一定の時間労働したならば休養しなければならぬ、十二時間も十五時間も人を使ふことは出来ぬのであります、日本でも今後學校を解放して社會的に利用する場合には自然學校長、教員、殊に體操の先生、唱歌の先生などに兼務して貰ふことがあるだらうと思ひます、それには必ず相當な手當を拂ふと致したいと思ひます、併しながら晝間忙しく働いた人をまた晩まで引き續き使ふ事は無理であるから放課後なり夜なりの指導者は特に儲ふと云ふことを原則としたのであります、是は當然のことだらうと思ふのであります、伯林あたりでは放課後になると諸方の學校の生徒が市中の建築用地の一時空いて居る所に集つて、女の先生も男の先生も體操服を着て盛んに子供を遊ばして居る、放課後の二時間なり三時間なりを遊ばせると云ふことになつて居りますが、あれなどを聞いて見ますと、其の先生達には市から一回三馬克づゝ、今は金が廉いからどんなことになつて居るか知れませぬが、

戰前で約一圓五十錢の手當を給して居る、又貧乏人の弱い子供主として小學兒童でありますが、慈善團體で金を集めて、夏季保養の爲め團體で海岸にやつたり、温泉にやつたり、田舎にやつたりする、それは四十人位を一團にして男の先生が一人、先生に奥さんがあれば其の奥さんも子供も連れて行く、その男教師が一組の子供を連れて四週間位轉地保養に行きます、さう云ふ場合にても校長ならば一日の手當が十馬克、平教員であると三馬克の手當が附いて食事は無料で子供と一緒に食ふ、往復の汽車賃も無料、家族を連れて行つても無料と云ふやうな風になつて居るのであります、無論場合に依つては報酬なしに義務的に働かせると云ふことも起るかも知れませぬが、放課後殊に晩なり休暇中なり人に人を使へば、それに相當な手當をやつて責任を持つて働かせると云ふことは今後は最も必要なやり方だらうと思ひます、從來學校の解放と云ふことは東京市などでも屢、行はれたのであります、何時も好成绩を擧げないで迂耶無耶に終つて、今日に到るまで公園の利用なり學校の解放なりと云ふやうなことは事實に於て薩張り行はれて居らぬ、是は何かと云ふと今御話したやうに組織が悪かつたのであります、適當な管理者指導者の事を十分考慮されぬで居つた、無理があつたのである、幾ら良いことでも無理があれば行はれぬのであります、無理のないやうに相當の手當を與へて、相當な規定を設けて火災杯の危険のないやうにして、相當の責任を持たして働かせなければならぬ、責任を持たして働かせるには相當な報酬がなければならぬ、歐羅巴ではそこまで研究して實行されて居る、此制度が發達して來て居るのである、我國では地方經濟の上で困難と云ふこともあるかも知れませぬが、今後健全なる發達を期するには矢張りそこまで考へなければならぬ、それを考へないで義務的に働かせると云ふことでは到底眞に効果を擧げる事が出来ないものであります。

以上御話申上げたことは動ともすると大都會のことばかりであるやうに御聴取になつたかも知れませぬけれども、村落の學校に於ても此意味で行けると思ふのであります、併し村落の學校では教員の住宅、校長の住宅を學校内に拵へなければ此學校解放は有効に行はれぬ、學校へ行つて見ると小使が一人番をして居る、學校の庭へ入つて見ても草花一本咲いて居ない様な、殺風景なものになつて居つては學校の中へ入つて見やうと云ふ氣が起らないのであります、所が校内に教員の住宅があり小使も其一部分に住つて居る、周圍の黒板塀を撤去して生垣にでもするとか、空地に花壇でも造るとかして心持のよい所になり、そして圖書閱覽所は解放されて新聞雜誌新刊書が何時行つても見られる、講堂では屢々、色々な集會がある、晩は補習教育が行はれる、斯くの如くして常に學校に人が出入をし、それに學校に校長始め誰れか住つて居れば、御互の住宅の如く其處に何となく生氣が出来る、溫味が附く、家らしくなる、學校は官廳でもなければ役所でもない、また放課後も殺風景な空家でない、放課後も人が住つて居て、人の近づき易い出入し易い居心地のよい場所にしなければならぬ。

所が在來の日本の村落の學校は、休日や放課後は多くは戸が閉されて仕舞つて教員も居ない、小使が番をして居る位で甚だ殺風景、沒趣味になつて居る、是では立寄つて見やうと云ふ考へが起らぬ、出入をして見やうと云ふ考へが起らぬ、故に私はどうしても教員の住宅を設け、學校園の設備杯もして學校を少しく裝飾し、第一に板塀杯を撤去して外から見透く生垣か何かにして、人の住つて居る家らしくしたいと思ふのであります、さうなると種々の事業は放課後晩まで校長が始終世話をしなければならぬかと云ふさうではない、青年團は青年團の幹部なり指導者なりが來て世話をする、處女會は女先生なり有志の婦人なりが來て世話を

する、軍人會は軍人會の幹部が來て世話をして、校長は其處に住つてさへ居れば可いのである、必要な場合だけに時々出て貰へば可い、そしてあとの戸締、火の元などは小使にしつかりしたものを置き又學校に宿直があつてそれが責任を持つと云ふことにして置けば可いのであります、そして町村は電燈の設備なり煖室の設備なりに相當の費用を出してやる、さう云ふやうなことになるれば一層行はれ易いのであります、我が邦では學校を子供の教育以外の事に使ふことが甚だ少ないのであります。學校をもそつと社交の中心、或は修養、娛樂の場所等に活かして使ふことが必要ではないかと思ひます、獨逸の田舎の小學校へ行つて見ました、其小學校は單級でありまして生徒の數が二十七人、さうして其二十七人の生徒の入る部室が一つあつて、學校全體が教員の住宅になつて居る、先生の居室、應接室、寢室、食堂色々な室があり、學校の裏には農具小屋があつて色々藏つてある、又其の一部には豚や鶏が飼つてある、それから學校には學田とも見做すべき廣い畑が附いて居つて校長の使用に供されて居る、それで校長は自分で耕すなり農夫に托するなりする故に、果樹があつて桃や林檎も取れる、小麥野菜も出来る、單級ですから先生は學校長一人ほかない、其處へ村の子供が通つて来る、寺小屋風に出来て居る、校長の住宅の一室が教室であるのである、故に學校即ち教員住宅には生垣があり、花壇があり、果樹に實が附いて居つたり、畑に野菜類が出来て居つたり、まるで普通の農家の屋敷へ行つたやうな感じがある、随つて役所の様な感じはせぬ、子供が其學校を卒業すると、自分の養成された學校は、自分達が經營して居る自治團體の所有物であると云ふ考を以て町村の利益、幸福を進める意味で學校を兒童教育以外の事にまで有益に使ふと云ふやうになつて居るのであります、斯う云つたやうに學校が其村落の教育の中心機關であり、同時に社會教育や社交の中心機關である様に、今少しく盛に利用さ

れると云ふことが必要であらうと思ひます、さうなると學校が從來の様に殺風景でなく實に趣味あり、溫味ある所になる、今日の如く學校は中々思ひ切つた立派な建築をして居るに拘らず毎日少時間のほか利用されて居らぬと云ふことは國家の經濟から云つて無駄なことと思ふ、何かの會合のあつた後の食事なども態々之れを料理屋杯へ持つて往つて開かないで直ぐに學校を利用する様にしては何うであらうか、それには從來の宴會のやうに疊の上で杯盤狼藉と云つた様な不秩序、非衛生的な仕方をしないで、テーブルに向つて食事をして無暗に人に酒を強ひたりしないで、學校で簡單な物を拵へて食べても差支なからうと思はれます、學校は神聖の場所でありますから自然行儀も良くなり宴會の仕方もよくなると思ひます、日本食を椅子にかゝつて一緒に食べると云ふことは大變良いことで、之を改良の第一歩と思ひます、學校設備の利用も此處まで進まなければ眞に徹底したものとは申されませぬ。

大正十年二月十七日印刷
大正十年二月二十日發行

定價 上中下各卷圓廿五錢
價 上中下合本參圓五拾錢

文部省普通學務局

社會講演會
奧附集教育

發行者

東京市京橋區加賀町九十一番地
大谷仁兵衛

印刷者

東京市京橋區加賀町九十一番地
井田耕治

印刷所

東京市外北品川宿禰少崎四六九番地
行政學會印刷所

發行所

東京市京橋區加賀町九十一番地
京都市下京區三條通御幸町西へ入ル

帝國地方行政學會

電話
東京 特長 同席 六六六
京都 特長 同中 三九五
八五三二一